2013年度 防災教育 チャレンジプラン 活動報告会

Disaster Management Education Challenge Plan Competition

2013年度
防災教育
チャレンジプラン
成果発表

2014年度
防災教育
チャレンジプラン
決定・発表

日　時：2014年2月22(土)10:00～17:30
会　場：有明の丘基幹的広域防災拠点施設(東京・有明)

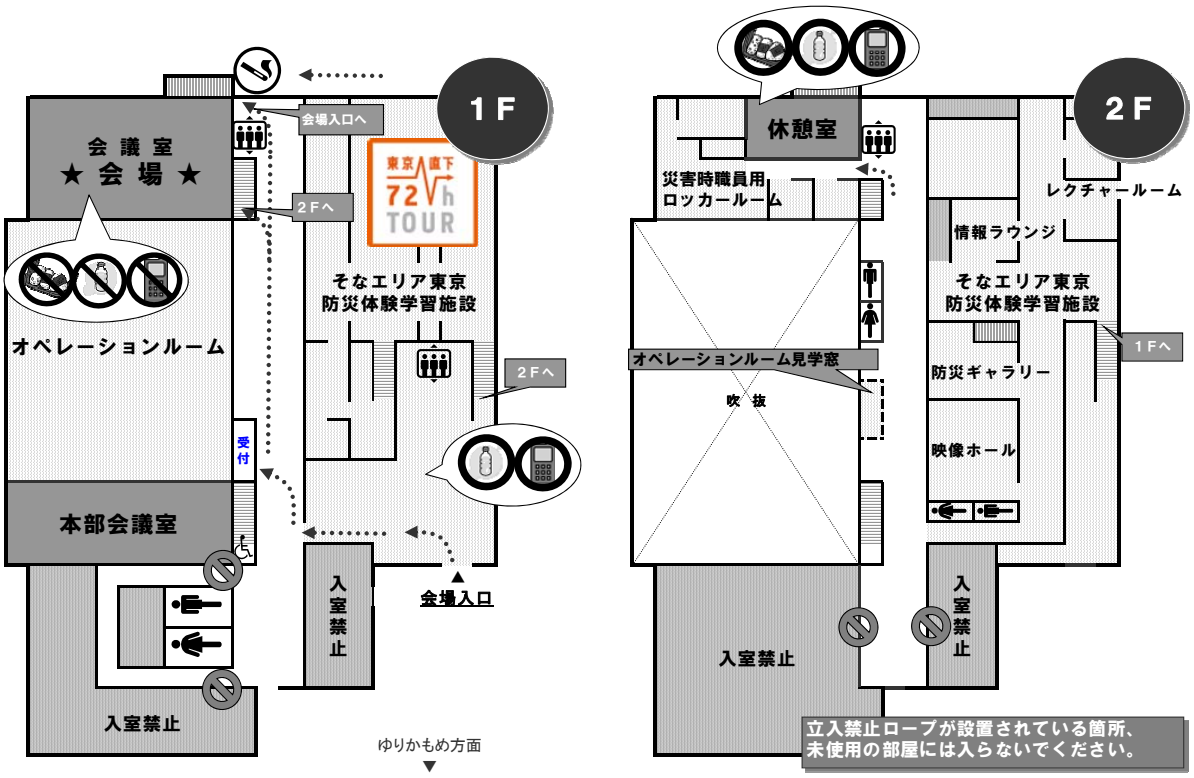
www.bosai-study.net

主催：防災教育チャレンジプラン実行委員会・内閣府（防災担当）
後援：消防庁・文部科学省・国土交通省・全国知事会・全国市長会・全国町村会・日本赤十字社・全国都道府県教育委員会連合会・日本ＰＴＡ全国協議会

「防災教育チャレンジプランは、公益財団法人河川財団の河川整備基金の助成を受けています。」

会　場　図

■館内図



※　報告会会場は、飲食及び携帯電話の通話をご遠慮ください。
※　2F休憩室は昼休みのみ開放です。喫煙所は、一旦会場をでて外から周ってください。
※　施設内の機器には、お手を触れないでください。
※　未使用の部屋には立ち入らないでください。

■会場図

会場利用案内

■ 会場座席

・「会場図」に従い、所定のエリアにご着席ください。

■ 施設利用にあたっての注意

・喫煙は、指定の場所以外は《 禁煙 》です。
・携帯電話は、電源オフまたはマナーモードに設定し、会場内での通話はご遠慮ください。
・ゴミは、各自の責任ですべてお持ち帰りください。
・立入禁止ロープが設置されている箇所、未使用の部屋には入らないでください。
・施設常設の機器等については、お手を触れないでください。

■ そなエリア施設見学について

・以下の施設を昼休み、休憩時間に各自で見学可能となります。
①そなエリア 1F 災害体験ゾーン（所要時間約 30 分）
ニンテンドーDS から出題されるクイズを解きながら首都直下地震の発災から避難までの一連の流れを体験できる「東京直下 72h ツアー」
②そなエリア 2F 防災学習ゾーン（所要時間約 30 分）
首都直下地震をわかりやすく紹介するミニシアター、PC による防災クイズ、防災学習映像のライブラリー、世界の防災用品や防災ゲームの展示体験コーナー。映像ホールではアニメ「東京マグニチュード 8.0～東京直下 72h～」（約 20 分）を上映

■ 発表・講演等の記録について

・活動報告会の記録のため、事務局側にて、音声の録音、ビデオ撮影、写真撮影を行います。また、これら資料をデータベース化し、防災教育チャレンジプラン関係する媒体（ホームページ、パンフレット、報告書等）または関係者に供しますので、ご了承ください。

■ ネームプレートについて

・受付でお受け取りになったネームプレートは、首からお提げください。
・昼食時等の外出の場合、入館時には必ずネームプレートをご提示ください。
・お帰り時は、受付常設のネームプレート回収ボックスに、ご投函ください。

《発表団体対象》

■ 展示物について

・展示物掲示～配置～撤去及び回収は、出演団体各位の責任で行ってください。
・施設の床、壁面、備品等を汚したり、傷をつけたりしないよう、ご注意ください。

■ 発表方法について

・事前にご提出のスライドデータに基づき、説明を行っていただきます。当日のデータ差し替えは、一切できません。
・発表時間は事前にお知らせしたとおりです。時間の経過は、ベルでお知らせしますので、**時間厳守**でお願いします。
・各部の発表順が２番目以降の発表者は、ひとつ前の団体の説明が始まるのと同時に、各自で待機席まで移動していただき、ご着席ください。

避難誘導の御案内

災害発生時には、当会場は政府の合同現地対策本部が設置される施設となります。
首都圏を中心とする災害発生時、次のとおりにお願いします。

1. 待　　機
避難指示があるまで、施設内で待機してください。
2. 展示物等の撤収・避難指示
内閣府より事務局へ避難指示が入ります。事務局の指示にしたがってください。

防災教育チャレンジプランとは？

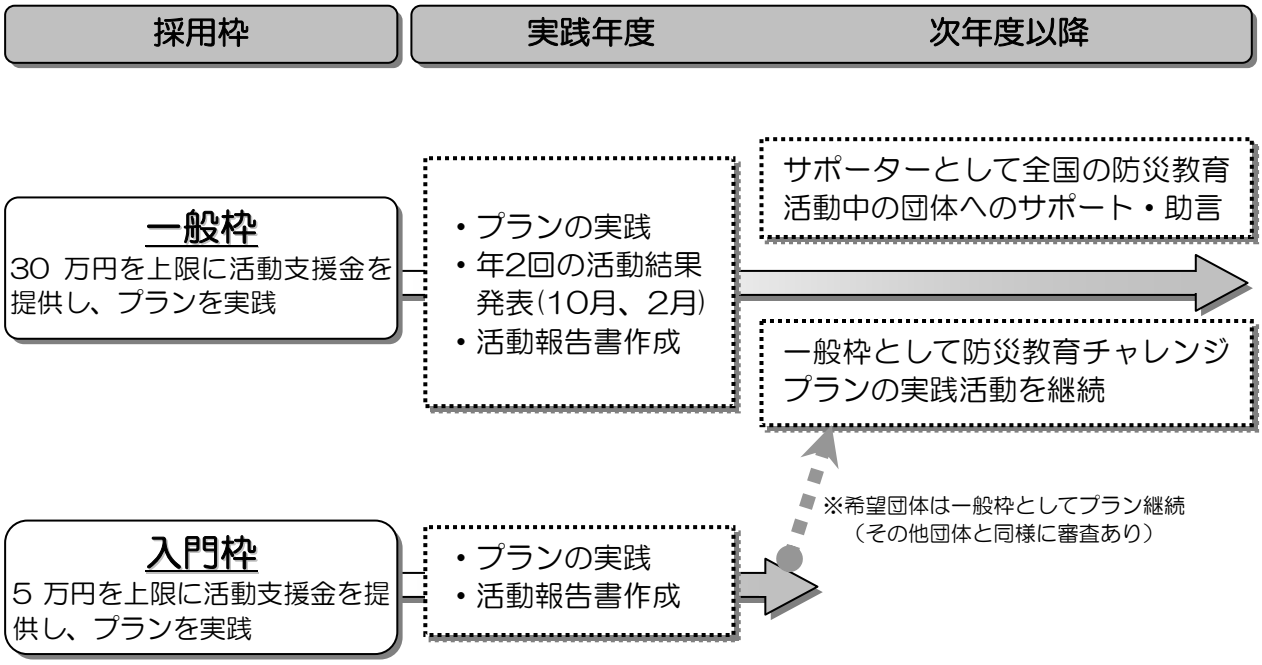
■　防災教育チャレンジプランの目的

国内外で大規模な災害が起きている昨今、またいつ災害がやってくるかわかりません。いつやってくるかわからない災害に備え大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害があった時すぐに立ち直る力を一人一人が身につけるため、全国の地域や学校で防災教育を推進するためのプランです。

全国各地の防災教育への意欲をもつ団体・学校・個人等に対し、より充実した防災教育のプランを募集し、「防災教育チャレンジプラン」として選出した上で、その実践への支援を行います。

１年間の実践の後、その実践例や支援した取り組みの内容を活動報告会を通じて広く公開・共有するとともに優れた実践の表彰を行うことで、全国の防災教育に取り組む団体・学校・個人やそのプランに光をあて、各地域で自律的に防災教育に取り組むことのできる環境づくりを目指します。

■　防災教育チャレンジプラン実践団体の構成と実践スケジュール



■ 入門枠(はじめの一歩)とは

３月11日の東日本大震災をきっかけに、防災教育への興味・関心が高まった方、防災育を実施したくなった方も多くおられると思います。そこで防災教育チャレンジプランでは「これまで防災教育をやったことがなくてよくわからない」「やりたいけれどもいきなり計画案を作って応募することは難しい」という団体に対して、入門枠（はじめの一歩）を用意しました。

入門枠（はじめの一歩）に採択されると、まずは１年間にわたってチャレンジプランで既に実施された防災教育プログラムを学び・実践しながら、次年度のチャレンジプランに応募するための計画を作成します。計画が採択されると、次年度は一般のチャレンジプラン実践団体として活動を行います。

なお、入門枠（はじめの一歩）は、一般枠の実践団体応募と比べると、活動費の支援は上限５万円ですが、応募書類などが簡略化されており、やる気があれば「誰でも」「気軽に」応募できるものとなっています。ぜひ、奮ってご応募ください。

■ 「特別枠」ジオパークとは

2013年度は国内でジオパーク活動をしている場所で行われている実践活動であることを条件に特別枠実践団体の募集を行いました。(2014年度の特別枠はなし)

ジオパークとは、地球に関わる様々な自然遺産を保護し、研究に活用するとともに、自然と人間との関わりを理解する場所として整備し、科学教育や防災教育の場として、また新たな観光資源として地域の振興に活かす場所とそこでの取組のことです。

2013年度は下記の団体が特別枠として採用されました。

『伊豆半島ジオパーク推進協議会(静岡県伊東市)』

実行委員の紹介

委員長

林　春男	京都大学防災研究所巨大災害研究センター 教授
市川　啓一	株式会社レスキューナウ危機管理研究所 代表取締役
井上　浩一	防災ネットワークプラン 代表
鍵屋　　一	板橋区議会 事務局長
木村　玲欧	兵庫県立大学環境人間学部 准教授
国崎　信江	株式会社危機管理教育研究所 代表
栗田　暢之	特定非営利活動法人レスキューストックヤード 代表理事
齊藤　清一	特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク 事務局長
佐藤　公治	南三陸町立志津川中学校 教諭
澤野　次郎	災害救援ボランティア推進委員会 委員長
篠田　貴司	新島村立式根島中学校 教諭
諏訪　清二	兵庫県立舞子高等学校環境防災科 科長
田村　　拓	株式会社 CSK サービスウェア 取締役常務執行役員
中川　和之	株式会社時事通信社 編集局付兼解説委員
平田　　直	東京大学地震研究所地震予知研究センター センター長･教授
福和　伸夫	名古屋大学減災連携研究センター センター長・教授
舩木　伸江	神戸学院大学人文学部人文学科 准教授
松尾　知純	防災ゲート・パートナーズ 代表
南島　正重	東京都立両国高等学校・附属中学校 主幹教諭
五島　政一	国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官
丸山　秀明	文部科学省研究開発局地震・防災研究課 防災科学技術推進室長
藤山　秀章	内閣府政策統括官（防災担当）付 参事官（調査・企画担当）
赤松　俊彦	消防庁 国民保護・防災部 防災課 課長
四日市 正俊	内閣府政策統括官（防災担当）付 参事官（普及啓発・連携担当）

（平成 25 年 12 月 1 日現在、所属役職別 50 音順、敬称略）

プログラム

9:00～　受付（1階エントランスホール）

10:00 開会

10:00 開会挨拶

防災教育チャレンジプラン実行委員長　林　春男
内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（調査・企画担当）　藤山　秀章

10:10 2013年度　実践団体（一般枠）発表　**司会 ： 防災教育チャレンジプラン実行委員　井上　浩一**

10:10～　① くにたち地域外国人のための防災連絡会（KUNIBO）　※発表 1 団体 10 分
10:20～　② 仙台市立南吉成中学校
10:30～　③ アトリエ太陽の子
10:40～　④ 大船渡市立吉浜中学校
10:50～　⑤ 糸魚川市立大和川小学校
11:00～　⑥ 千葉県立千葉聾学校
11:10～　⑦ 伊豆半島ジオパーク推進協議会
11:20～　⑧ 気仙沼市立階上中学校

11:30 2013年度　実践団体発表　講評

防災教育チャレンジプラン実行委員　松尾　知純

11:45 昼　休　憩　《60分》

12:45 2013年度　実践団体（一般枠）発表　**司会 ： 防災教育チャレンジプラン実行委員　篠田　貴司**

12:45～　⑨ 御嵩町立上之郷小学校　※発表 1 団体 10 分
12:55～　⑩ 八千代市立みどりが丘小学校　学校支援委員会　環境整備部
13:05～　⑪ 高知県立室戸高等学校
13:15～　⑫ 社会福祉法人　大阪市鶴見区社会福祉協議会
13:25～　⑬ 九十九里町立片貝幼稚園
13:35～　⑭ 飯田市赤十字奉仕団
13:45～　⑮ 市原市立白金小学校
13:55～　⑯ 港区立お台場学園港陽中学校
14:05～　⑰ 南阿蘇村立久木野中学校

14:15 2013年度　実践団体発表　講評

防災教育チャレンジプラン実行委員　松尾　知純

14:30 サポーター認定証授与・記念撮影

防災教育チャレンジプラン実行委員　中川　和之

14:40 休　憩　《15分》

14:55 2014年度　実践団体（一般枠）発表　**司会 ： 防災教育チャレンジプラン実行委員　佐藤　公治**

14:55～　① 静岡大学教育学部藤井基貴研究室　※発表 1 団体 5 分
15:00～　② 上富田ふれあいルーム
15:05～　③ 仙台市立南吉成中学校
15:10～　④ 新潟市立小針小学校
15:15～　⑤ 竜南いのち守り隊
15:20～　⑥ 埼玉県立日高特別支援学校
15:25～　⑦ 香川県立盲学校
15:30～　⑧ 糸魚川市立大和川小学校
15:35～　⑨ 芦北町立田浦小学校
15:40～　⑩ 周防大島町立城山小学校
15:45～　⑪ 一般社団法人 PORO
15:50～　⑫ 中津市立城北中学校
15:55～　⑬ 防災腹話術研究会
16:00～　⑭ NPO 法人防災白熱アカデミィ
16:05～　⑮ 能代市消防団

16:10 休　憩　《15分》

16:25 2014年度　実践団体（入門枠）発表　**司会 ： 防災教育チャレンジプラン実行委員　佐藤　公治**

16:25～　① 静岡県立沼津特別支援学校　愛鷹分校　※発表 1 団体 5 分
16:30～　② 釧路市立大楽毛小学校　（入門枠全 10 団体のうち、発表を希望した 6 団体による発表）
16:35～　③ 気仙沼市立階上小学校
16:40～　④ 西予市立皆田小学校
16:45～　⑤ ハッピーアイランド
16:50～　⑥ 特定非営利活動法人　千葉自然学校

16:55 2013年度　防災教育チャレンジプランの表彰・記念撮影・講評

防災教育チャレンジプラン審査委員長　渡邉　正樹

17:25 閉会挨拶

防災教育チャレンジプラン実行委員長　林　春男

17:30 閉会

17:30～17:45　2014 年度実践団体　説明会　（各団体より 1 名参加）
18:00～20:00　交流会　（別会場）

※15:00 より、別会場にて 2013 年度防災教育チャレンジプラン審査委員会を開催

2013年度実践団体（一般枠・特別枠）の紹介

① くにたち地域外国人のための防災連絡会（KUNIBO） ／ 東京都国立市《大学・一般の部》

在住外国人が主体となって作成した防災メモ、ステッカーや防災マップを使って訓練また災害時のみならず日常の生活での活用をはかる。

今年度のプランの特徴：昨年の大震災を受けて、防災に関しての意識についてはまだまだ十分でないことに気づかされた。特に日本語での情報交換は緊急時には限界がある。災害時通訳ボランテアの必要性を痛切に感じた。行政，大学と協働して災害時通訳ボランテアを募集、育成する。

② 仙台市立南吉成中学校 ／ 宮城県仙台市《中学校の部、大学・一般の部》

東日本大震災では防災・減災等に関する様々な課題が露呈し、その解決に向けた実践的な防災教育が必要かつ重要である。本校では中学生が主導する地域防災訓練を実施することで、現在および将来を含めた地域防災の担い手を育成し、災害時の率先行動者を育み、住民を巻き込む教育実践を目指している。さらには、市内の被災状況と現況を知り、復旧・復興に向けた支援活動を行い、奉仕的精神と自己有用感を育成する。これらの実践により、大震災の教訓から防災・減災文化の構築と継承の在り方についても追究していく。

③ アトリエ太陽の子 ／ 兵庫県神戸市《保育園・幼稚園の部～大学・一般の部》

・東日本大震災被災地へ、友情と希望を届ける為、継続して兵庫から被災地の学校へ絵画作品等をお送りし、心のエールを届ける。
・東北被災地の学校に材料を全て用意し、出前授業を行う。
8m×3．2mの紙に共同制作にて、声を出し全身を使って、復興のシンボルの桜を描く。桜の花は、手のひらに絵の具を付けてスタッピング技法を用い、創作の喜び、躍動感を感じてもらう。
完成作品は、学校行事（入学式、卒業式など）に役立て、地域の方々への活力へと繋がる。

.

④ 大船渡市立吉浜中学校 ／ 岩手県大船渡市《中学校の部》

【目的】
・奇跡の集落と言われる吉浜地区を生徒が誇りに思う学習の実施
・地域の方々から当地区の歴史を学び、地域を含めた防災教育の実施
・教育活動の様子をブログで発信

【特徴】
・福岡県大野城市の中学生との交流事業を、全校生徒を対象として実施
・明治２９年の三陸大津波を機に地域全体が高台移転を実施した。現在に至るまでの様子を文化祭の演劇で発表
・昭和の津波記念碑を依然あった場所に戻し、その周辺を平成の津波記念公園とする活動を地域と共に推進

⑤ 糸魚川市立大和川小学校 ／ 新潟県糸魚川市《小学校低学年の部、小学校高学年の部》

糸魚川市が世界に誇る自然環境(ジオパーク)は、地域の歴史であり、宝であり、生活環境そのものである。「雄大で美しい海に面したジオパークとしての大和川地域」に、児童が地域住民と共に生きていく上で、地域の自然災害の現状やその対策の方法を、児童、PTA、地域住民が協力・連携して学び合い、得た成果や課題を共有していく必要がある。

この取組は「防災教育とジオパーク」の２つを関連付けた「防災教育プランの実践例(海、津波編)」としての提案になると考える。

⑥ 千葉県立千葉聾学校 ／ 千葉県千葉市《保育園・幼稚園の部～大学・一般の部》

自助の視点のもと、授業の中で学んだことや体験したことをまとめて表現するなどの経験を通して伝わる経験をする。火災や地震を想定した校外での総合訓練を地域と一体となって取り組み、共助の観点から伝える・伝え合う防災意識を高める。

防災に関して、聾学校・淑徳大学・地元自治会で共有した情報発信を積極的に行い、聴覚障害に応じた防災時の情報伝達手段の用具の開発と活用に取り組み、公共の施設で活用されることを目指す。

⑦ 伊豆半島ジオパーク推進協議会事務局（特別枠） ／ 静岡県伊東市
《小学校高学年の部、～高等学校の部》

美しい自然は災害の語り部でもあります。自然のなりたちを知ることで、自然を楽しみながら、自らの住む土地でどのような災害が起こるのか知ることもできます。

一方、特に大規模災害については、発生頻度も低く、自然からおおまかな現象を読み取ることができても、実際に生じる被害にまで結びつけるための正しいイメージを持つことは困難です。

本プランは、自然を読み取る、実験やイラストで正しいイメージを持つ、ことを目的とした防災教育プログラムを開発することを目的とします。

⑧ 気仙沼市立階上中学校 ／ 宮城県気仙沼市《中学校の部》

本年度のテーマは「自助・公助」です。災害についての正しい知識や理解、災害発生時・後に必要とされる判断力・技能を身に付けると共に、公的機関の役割やＮＰＯ等の活動内容などについて学習します。さらに、様々な状況下で地域の方々と避難訓練を行ったり災害時に「公的機関の支援までにできること」という条件のもとで避難所設営・運営訓練等に取り組んだりする予定です。また、地元の復興に向けてできることを考えていきます。

⑨ 御嵩町立上之郷小学校 ／ 岐阜県可児郡《小学校低学年の部～小学校高学年の部》

「自分の命は自分で守る～その命は誰かを幸せにできる～」

学校ではどんな防災教育を始めるとよいのか、家庭が行うことは何か、地域にできることは何か、また、地域・家庭・学校が力を合わせ子どもたちをどのように育てるとよいか等、新たに生み出したり、考え続けたりしなければならない課題が学校教育の中に浮上してきている。地域・家庭・学校がそれぞれ担うこと、互いが力を合わせることを模索し、防災教育推進地域となるべく、その実践を始めた。

⑩ 八千代市立みどりが丘小学校 学校支援委員会 環境整備部 ／ 千葉県八千代市
《小学校低学年の部～小学校高学年の部、大学・一般の部》

家庭にある物や、身近にあるものを利用して、一日避難生活をしてみます。

家庭や自治会での防災知識向上と、避難しなくても自宅でできる避難生活を体験考えていく。１日避難生活を体験することで、災害時のシミュレーションを行う。

【特徴】

身近にある日用品による、避難生活によって、ノウハウの蓄積と避難所に避難しなくても生活できるプログラム作成を目指す。

⑪ 高知県立室戸高等学校 ／ 高知県室戸市《高等学校の部》

本プランでは、生徒が地域住民とのコミュニケーションの中で、既存のハザードマップをより有効に利用できるように、住民一人一人に合わせた避難経路や減災のための計画作りを行う。室戸市は、世界および日本ジオパークネットワークに加盟しており、プランを実行するために人材やノウハウを国内外で共有することができる点が特徴である。すでに、室戸高校は日本ジオパーク全国大会において、岩手県の高校生とも交流しており、この知識と経験を活かしたい。

⑫ 社会福祉法人 大阪市鶴見区社会福祉協議会 ／ 大阪府大阪市《大学・一般の部》

災害救助法が、避難所の設置・運営に当たって災害時要援護者にどこまでの配慮を可能にしているのかを検討しながら、災害時において最大限の支援が行えるような体制づくりを目指します。

具体的には、東日本大震災における福祉避難所運営の体験談をお伺いし、実際に、災害時要援護者が避難をすることを前提とした福祉避難所運営訓練を実施するとともに、地域や事業者が災害前にどのような備えをしておくべきなのかを専門家を交えながら考えていきます。

⑬ 九十九里町立片貝幼稚園 ／ 千葉県九十九里町《保育園・幼稚園の部》

- 幼稚園教育要領の各領域と防災教育を関連付け、引き続き総合的に指導する。
- 近隣の幼稚園、保育所や未就園の子ども達に自作教材の人形劇を見てもらい、地域の子にも防災に関心を持ってもらう。
- 2012 年チャレンジプラン実施の千葉県立東金支援学校さんのご指導の下、生徒さんが取り組んでいる防災の替え歌を活用させて頂き、園児向けの振付を考え多くの子ども達に広げ防災意識を高める。
- 園児といっしょに防災に関する教材製作をする。

⑭ 飯田市赤十字奉仕団 ／ 長野県飯田市《中学校の部、大学・一般の部》

2012 年度から地域防災をテーマに作品を製作（三六災害）してきたが、2013 年度は「飯田大火とりんご並木（仮称）」と題した作品を製作し、大火の恐ろしさの伝承と、地元中学生の提案から始まったりんご並木にこめられた復興への想いやこれまでの取り組みを紙芝居とすることで、防災意識の啓発及び東日本大震災の復興への一助としたいです。

⑮ 市原市立白金小学校 ／ 千葉県市原市《小学校低学年の部～小学校高学年の部》

家庭と地域とともに行う防災教育・訓練により、災害時(地震・津波風水害など)の基本的な行動・知識を身につけることを目的とする。学校と地域が連携した防災訓練を継続するとともに、家庭・地域住民が活用できる「携帯用防災行動マニュアル」を作成する。同時に外国人向け(英語・タガログ語・スペイン語・ポルトガル語等)の翻訳版を作成する。家庭内で母国語に翻訳することにより、防災意識を高めたい。

⑯ 港区立お台場学園港陽中学校 ／ 東京都港区《中学校の部》

【目的】

・お台場は、昼間多くの大人が仕事でお台場の外に出ているため、中学生も地域防災の担い手として活動することが、期待されています。そこで、中学生全員で構成する「お台場学園防災Ｊｒ．ティーム」を組織し、災害発生時に、適切に活動できるよう日常的に訓練を実施しています。

【特徴】

・訓練は、食糧班、設営・運搬・誘導班、救護・援護班、消火班に分かれて行い、毎年の港区総合防災訓練では、運営者として各コーナーを担当し、参加者にＡＥＤの操作を説明したり、炊き出しを行ったりします。

⑰ 南阿蘇村立久木野中学校 ／ 熊本県阿蘇郡《中学校の部》

本校は自然豊かな環境にある半面、昨年の九州北部豪雨のように、自然災害と隣り合わせの環境でもあります。そこで、豊かな自然と共生しながら、「想定外」の災害から自分の命を守りぬくために、地域の関係機関と連携しながらの避難訓練や、自らの命を守り抜くための防災教育に取り組んでいきます。

・避難訓練の工夫
・地域の特性を考えた防災教育
・学校安全委員会の充実。

① くにたち地域外国人のための防災連絡会（KUNIBO）

プラン名 くにたち地域外国人のための防災対策

プランの対象 全ての人々　　**所在地** 東京都国立市

―プランの目的・ここがポイント！

地域に住む留学生を含む外国人、および公民館に集う人々が、防災を通じて繋がりを持ち、人と人が繋がり合った延長線上に「共助」の基礎が出来て来るようにしむける。公民館が「外国人の防災の情報の拠点」と位置づけられていることをこの活動を通じて、知ってもらうことも目的の一つである。

―プランの概要

２ヶ月に一度の割合で、公民館を会場として、防災に関するさまざまな講演、実践講習を取り混ぜ企画し、出来るだけ多くの外国籍住民と地域の人々が出会う機会を作る。そのため多くの人々が興味を持つ内容を企画に盛り込む。

―期待される効果・ここがおすすめ！

私たちは「外国人の防災対策」を企画しているが、災害に関して、それは、外国人だけの問題ではない。日本語が良く理解できない外国人には日本語を伝授することの出来る日本人が必要であり、仮に、大災害が起これば、人種の区別なく助けられる環境作りが重要である。特に高齢化社会の中で、比較的若い年代層の外国人居住者を取り込むことによる効果は計り知れないと期待している。また、大学町である特徴を多いに活用する、留学生の持つ母語、流暢な日本語、第三の言語を活用できるよう、大学と連携することはさらに地域に貢献してくれる人材を確保できると期待している。

―成果として得たこと

「KUNIBO」という名称が防災について活動している団体であり、国際交流ボランティアの集まりであることが少しずつではあるが地域で知られてきている。私たちの定例の活動が社会教育の現場である公民館が学ぶ「防災」を積極的に取り込み始めたこと。また、全館上げて防災訓練を行うきっかけとなった。通訳ボランティアであることを一目で分かるようにし、防災訓練に参加してもらったことは、日本語がまだ分からない外国人も近くにいることを示したと思う。

防災食講習の中でも、国によっては豚肉を食べないので、代わりの食材のことを話題に出すと言うように、それぞれが持つ文化を大切にしようという考えが出て来たと感じた。

―全体の反省・感想・課題

企画についてより多くの住民が必要あるいは興味を持つと考えられるものを見いだすことが重要であるが、的確に判断するための情報に乏しい。また、企画に対して参加者の結集を計るためにキーパーソンの活用が十分でなかった。

―今後の継続予定

会を設立して４年が経過したが、まだ円熟した活動には達していない。最低５年間は活動の基盤作りと考えている。そのため、これまで通り防災をツールに地域の共生をはかり、いざというときには「共助」が出来る人間関係を構築していく企画を継続したい。

② 仙台市立南吉成中学校

プラン名 中学校と地域が協働する防災教育活動プラン

プランの対象 中学生、地域住民 教職員、保護者

所在地 宮城県仙台市

―プランの目的・ここがポイント！

本プランは、少子高齢化や核家族化が進み、住民の絆が薄れつつある地域において、中学生が主導する防災・減災の教育活動を実践し、自然災害に対する地域防災力を高め、持続可能な地域社会を担う人材を育成することを目的とする。実践では、中学生の教育活動に住民等の協力・支援を受けることで、地域を巻き込み、防災教育を通じて学校・地域・家庭の協働体制化を図り、地域活性化にも資する。更に本プランでは汎用性、継続性、発展性、有効性等の追究・検証を重ねている。

―プランの概要

①中学生が主導する地域防災訓練：中学生が地域防災訓練を地域組織の支援を受けて実施する。
②津波被災農家に弟子入り体験：津波被災農家の講話を聴き、農作業を支援して交流を図る。
③校内・炊き出し調理コンテスト：班単位でメニューを考え炊き出しに関する知識とスキルを学ぶ。
④仙台復興シンボルイベントの支援：仙台七夕等で、生徒がゴミ回収や清掃の奉仕活動を行う。
⑤防災教育の学習成果発表会：３年生が10テーマで調べた学習成果を、住民等に公表。

―期待される効果・ここがおすすめ！

本実践は、貢献活動による奉仕的精神を培い、防災・減災の意識と行動力を高め、生徒に防災対応能力を育む。生徒主導の訓練では、地域を巻き込む防災教育が災害時の自助・共助の方策を形作り、地域防災力の向上に資する。将来的にはこの防災教育が、地域防災を担う要となる人材を育み、住民等と世代を超えた防災の協働体制を構築し、地域の活性化と安心安全な地域づくりに波及する。

―成果として得たこと

①中学生が主導する訓練により地域防災を担う人材が育成され、地域に根付く防災・減災が確立。
②町内会等の地域組織による学校支援は、防災教育を切り口として地域を巻き込む教育実践となり、学校・地域・家庭が連携した取組に進化し、着実な地域防災力の向上につながる。
③中学生が主導し、学校支援組織が関わる地域防災訓練は、継続して実践され続ける可能性が高い。
④本プランは多様な地域特性に応じ、活かせる防災教育実践として汎用性と発展性がある。
⑤津波被災農家の体験等では、復興に自分の力を活かしたい、役立ちたい、何ができるか考えたいと生徒が思いを抱き、助け合い・支え合いの大切さ、苦難を乗り越える努力の必要性など、体験から奉仕の心とその意欲、さらには生き方をも学び取っている。また、同じ市内でも被害が違い、仮設住まい等の現況を知り、被災者の心情を理解し、教訓の風化を防ぎ、継承する責務を痛感した。

―全体の反省・感想・課題

本プランは中学生が防災教育を学ぶことだけに止まらず、地域住民を取り込む形に展開し、中学生が地域防災の要としてその役割が大いに期待されている。このことは、中学生が地域住民と一緒になって防災教育を学ぶことにあり、様々な成果や効果が得られるのも、そのことに起因している。今後、中学生と地域住民の取組が相乗効果を生み、地域防災力の向上につながるものと考える。そこで、より発展的な実践プランの改善・創出も、今後検討していく必要があり、中学生が地域防災力の向上のため、どのような実践プログラムに改良すべきかが問われていると考える。

―今後の継続予定

生徒主導の地域防災訓練では、次年度に小学生を新たに加えて訓練内容も拡充する予定である。津波被災農家の体験学習は今年度１・２年生と保護者が行ったが、次年度は全校生徒で行い、保護者の参加率も更に高める予定である。今後も調査データを分析し、成果の検証と各実践の改善・改良を図る。

③ アトリエ太陽の子

プラン名　地域全体の危機管理能力の向上をめざして

プランの対象　幼児、小学生、中学生～大学生、一般まで

所在地　兵庫県神戸市

―プランの目的・ここがポイント！

「心の手を繋ごう・東北に希望の春を届けたい」をキーワードに、兵庫県内の子ども達と東日本大震災被災地へ、『命の一本桜』（８×３．２m）等、絵画作品等をお送りし、心のエールを届ける事で、地域の子ども達の心を育て、防災教育の中心『命』の大切さ、尊さを学ぶ。また、東北被災地の小学校等で出前授業を行う事で、被災地の子ども達の心のケアとなり、また阪神淡路大震災を経験した神戸の地域の子ども達の心の交流となる。誰しもが親しみをもち、日本国民が愛する『桜』、長い冬を耐え春を伝える『桜』を皆で描く事で、また絵画が苦手な子ども達にも楽しんで描いてもらう楽しい技法で描く事で、皆で心を解放し、楽しみながら描く事が出来る。また、『紙に描く』事から、大変軽量で小さく畳める事や、どこにでも展示しやすい事から、学校行事の展示にも大変汎用性が高い。

―プランの概要

阪神淡路大震災を経験した神戸から東北に伺い、子どもの心のケアの為、復興の象徴・一本桜を幅8mの紙に全身を使って描く活動。目に見えぬ不安に脅かされている福島の子ども達、なかなか街の復興が進まない宮城県・岩手県の子ども達に、活動を実施普及し、入学式、卒業式、文化祭等、行事毎に展示する事で地域の活力に繋がっている。

―期待される効果・ここがおすすめ！

共同制作を行う事で、学年全体、学校全体で『１人では出来なくても、皆で協力し合う事で、成し得る事が出来る達成感』を体感してもらう。制作は 30 人規模から、400 人まで、全校生徒で１時間余りで大作が完成する。展示作品を御覧になる事で、地域の方々への活力へと繋がる。

―成果として得たこと

- 東日本大震災から２年半以上が経った今も、兵庫県内から実施希望校が相次ぎ、授業や講演を受けて頂いた園長先生方が各自の園での普及に努められ『命の一本桜』プロジェクトが広がっていっています。
- 東北被災地の小学校等と、１度きりでなく、５回、６回と継続した交流が続いています。
- 東北被災地の子ども達からのお手紙や、先生方からのお手紙から、『命の一本桜』プロジェクトの実施が、子ども達の心のケアの一端となっている事が証明されました。

―全体の反省・感想・課題

- 被災地現地での活動は、これまでは５日間の日程で４月に１０日間の日程で１０月に。と、年に２回の計画で実施しておりました。スケジュール的にも大変ハードになるため、今後は、３日間程の日程で年間に4回～6回いく事で、被災地との引き続き継続した交流を続けていきたいと思っています。只今、研究中です。

―今後の継続予定

- 東日本大震災の風化が進む現在、そして南海トラフ地震が危惧される現在、子ども達に防災の大切さを伝えると共に、「人の痛みが分かる」「人を思いやれる」そして「命の尊さ」をしっかりと伝え続ける必要性を感じています。パッケージ化を考え、動きだしました。

④ 大船渡市立吉浜中学校

プラン名 学び・つなぎ・伝える・キッピン（吉浜）げんき隊

プランの対象 生徒・地区の小学生・地域住民

所在地 岩手県大船渡市

―プランの目的・ここがポイント！
①奇跡の集落と言われる吉浜地区を生徒が誇りに思う学習の実施。
②地域の方々から当地区の歴史を学び、地域を含めた復興教育の実施。
③教育活動の様子をブログで発信。

―プランの概要
①地域の歴史を知り、地域の環境や史跡などを素材とした復興教育の実施。
②福岡県大野城市の中学生との交流事業を、全校生徒を対象として実施。
③明治２９年と昭和８年の２度の三陸大津波を機に地域全体が高台移転を実施した。そこから平成の大津波に至るまでの吉浜地区の様子を文化祭の演劇で発表。
④東日本大震災を1000年後まで語り継ぐために、平成の津波記憶石を津波到達点付近に建立。

―期待される効果・ここがおすすめ！
「自分の命は自分が守る」「地域を知り、地域を誇りに思う」「東日本大震災を1000年後まで語り継ぐ」生徒の育成を目指し、復興教育を推進してきた。

―成果として得たこと
①４月３日の三陸鉄道南リアス線の開通式で伝統の吉中ソーランを披露し、地域との絆を深めた。
②６月に地元漁港で、主残業であるホタテの耳吊り作業を体験し、漁業従事者との関わりを深めた。
③６月に校外活動時での地震・津波を想定した避難訓練を実施し、生徒たちの判断力を問うた。
④７月に岩手県立宮古工業高校による宮古湾周辺模型を利用した津波防災学習を実施し、地震による津波が湾に押し寄せてくる様子を学習した。
⑤７月に通学路にある復興花壇づくりを地域の方々と共に実施し、お互いの触れ合いと通行人への元気を与えることができた。
⑥阪神・淡路大震災の時に神戸で咲いたひまわりの花から派生した種や学校花壇から得た花や種などを利用し、復興タオルハンガー作りをし、心のセラピーにもつなげることができた。

⑦８月に大野城市中学生との交流を通して、１年生は三陸鉄道南リアス線に乗車し、語り部の案内で被災地を巡ることができた。２年生は吉浜地区をバスで巡り、その後、小船に乗って海上から奇跡の集落吉浜の町並みを直に見ることができた。高台移転の様子が手に取るようにわかった。３年生は世界遺産登録された平泉の中尊寺等を、本校の生徒たちが語り部となって巡った。吉浜と中尊寺の関わりも説明することができた。
⑧９月に地域内の津波危険区域に、自分たちが制作した安全標識を設置した。
⑨ＮＨＫ東日本大震災プロジェクトの「100万人の花は咲く」を復興合唱曲として、行事の際等に歌っている。
⑩１０月の文化祭で「奇跡の集落　吉浜」という手作りによる津波演劇を行い、先人たちが成しえた高台移転の様子を後世に伝える一翼を担うことができた。
⑪「1000年後に伝えたい吉浜」をテーマとした校内写真展と写真集を作成することができた。
⑫子どもたちの学習活動の様子をその都度本校ブログで発信し、広く周知するとともに子どもたちの励みにもすることができた。

⑤ 糸魚川市立大和川小学校

プラン名　大和川小発！ジオパークの海と向き合う地域防災教育

プランの対象　小学校低学年の部
小学校高学年の部

所在地　新潟県糸魚川市

―プランの目的・ここがポイント！

糸魚川市が世界に誇る自然環境(ジオパーク)は、地域の歴史であり、宝であり、生活環境そのものである。この世界ジオパークに児童が存分に浸り、かかわる学習を進め、素晴らしさに気付かせたい。

反面、大和川地域が抱える自然災害の現状とその対策の方法も理解していく。そして、世界ジオパークから得た学習の成果を地域住民に還元していく。

―プランの概要

当校では、自然(世界ジオパーク)、自立、共生を大切にし、「３つを重なり合わせながら進めていく防災教育」のモデル構築が、新しい提案になると考え、様々な実践を重ねてきた。

・世界ジオパークを学び、かかわり、愛着をもてる児童の育成(自然：ジオパーク)
・安全に避難するための知識、感覚、判断力、行動力を身に付ける児童の育成(自立)
・仲間同士や地域住民と協力し、助け合える児童の育成(共生)

―期待される効果・ここがおすすめ！

児童が、世界ジオパークに存分に浸り、自然や地域の人々とかかわる学習を進めることで、地域への愛着をより深めることができる。また、海に面した大和川地域ならではの津波の危険性を児童、PTA、地域住民が再認識するとともに、防災に関する協力・連携体制を整えることができる。

―成果として得たこと

・各学年（学級担任）が創意工夫し、年間を通して、「世界ジオパークを学ぶ学習」を展開した。地域に愛着をもてる児童が育ちつつある。
・防災教育における様々な実践を行ってきたことで、「安全に避難するための知識、感覚、判断力、行動力」が、児童に徐々に身に付いてきた。
・共生（人と人とのかかわり）を大切にして、防災教育を進めてきた。その結果、児童は仲間同士で協力し合い、助け合えるようになってきた。
・「防災教育を、地域とともに考える機会」をたくさん設けてきた。地域とともに防災教育を進められるような連携体制ができてきた。

―全体の反省・感想・課題

今後、防災教育を進めていく上で、

・世界ジオパークを学び、かかわり、愛着をもてる児童の育成。
・安全に避難するための「知識、感覚、判断力、行動力」を身に付ける児童の育成。
・仲間同士や地域住民と協力し、助け合える児童の育成。
・地域との連携組織の確立の四点をさらに進めていく必要がある。

―今後の継続予定

2013防災教育チャレンジプランに参加した。防災教育に対し、教職員、児童、PTA、地域住民が本気になって考え、連携したことで様々な成果を得た。しかし、学習内容の再構築、組織の確立など課題が残った。もう１年継続することで、課題を克服し、さらなる成果を上げることができると考える。そして、防災教育チャレンジプランに対して「世界ジオパークにおける防災教育」という「新しい提案」をすることができると考える。

⑥ 千葉県立千葉聾学校

プラン名　伝える・伝わる・伝え合う防災教育
～雨コミュニケーション力の向上による減災への取り組み～

プランの対象　幼児、児童、生徒、地域住民

所在地　千葉県千葉市

―プランの目的・ここがポイント！

1．自助の観点から言語力の活用を中核とした授業の実践を通して伝わる経験をする。
2．地震を想定した校外での防災訓練を行い、伝える意識を高める。
3．合同総合防災訓練の展開により、地域と一体になり、共助の観点から伝え合う防災意識を高める。

―プランの概要

・千葉市緑区との共催による「子ども防災体験」の開催。
近隣の平山小学校児童、鎌取自治会の方々を対象とした「子ども防災体験」の実施により、災害時の共助の観点から、「伝え合う防災意識」の向上と地域防災の活動を展開した。
・淑徳大学・千葉緑消防署の協力のもと、防災訓練を学期に１回実施。
淑徳大学学生消防隊の協力のもと、放水体験や消防車の見学、起震車体験等、地震や火災を想定した防災訓練を行い、「伝える」意識を高める活動を展開した。
・小学部６年生と保護者が「防災安全マップ」の作成にチャレンジ。
防災や安全の観点から、自宅を中心とした防災安全マップを作成し、日頃から歩いている場所について、危険な箇所や震災時の避難場所などの確認を行った。
・テーマパークの災害時における聴覚障害者の避難誘導方法や避難所などの聞き取り調査を実施。
中学部の修学旅行において生徒たちが調査を行い文化祭で発表し、情報発信の活動を展開した。
・本校児童・生徒および保護者、近隣住民を対象に「防災講演会」を開催。
「聞こえる世界と聞こえない世界をつなぐ」と題した聴覚障害者の立場からの講演を通して、ユニバーサルデザインと防災について考える機会となった。

―期待される効果・ここがおすすめ！

一人一人の防災安全マップづくりを行い、保護者と一緒に防災や安全について考え、自分で判断し行動する意識の高まりが期待できる。近隣の防災訓練の実施により、かかわる人たちの理解の高まりと地域の防災コミュニティへ参加により、幅広く伝え合うコミュニケーション力等の向上が可能になる。

―成果として得たこと

防災安全マップの作成およびテーマパークにおける避難経路や誘導についての成果物ができた。また、「子ども防災体験」は、地域の防災コミュニティへの参加による障害の理解と共助の意識の共有ができた。あわせて、万が一、災害が再び起こったとしても、被害を最小限に抑えるため、大学や地元自治会の一緒に防災・減災教育を進める必要を本校職員だけでなく地元自治会の方々も感じていただけた。今後は、この成果物や活動実績を活用して各教科の言語力の向上とコミュニケーション力の向上のために活用する。

―全体の反省・感想・課題

今回のプランの実施にあたり、「地震発生時に役立つか」と「防災知識が身につくか」の２つを大切にした。近隣地域や大学と協同した訓練の実施にあたっては、被災時の適切なコミュニケーションの取り方、自宅周辺の避難所や危険箇所の把握などにより、防災知識が根付くように計画した。自分の命は自分で守る姿勢と能力を身につけるため、繰り返し防災訓練をする必要がある。

今後も専門分野で活躍される方々と連携しながら訓練を継続し、学校の防災・減災教育の環境充実の実現に努めたい。

今後の課題は、公共の交通機関等と合同による地震を想定した避難訓練の実施をどのように進めるかである。

―今後の継続予定

今後も今年度と同様に避難訓練や防災講演会を実施したいと考えている。さらに、課題としてあげた公共の交通機関等での避難訓練の可能性の模索を継続したい。また、他県の聾学校と防災に関する授業の実施や防災訓練などについての情報交換を行い、本校の取組について積極的に情報発信を行いたい。

⑦ 伊豆半島ジオパーク推進協議会事務局（特別枠）

プラン名　伊豆半島ジオパーク・大地の成り立ちを知って備えるんだ！

プランの対象　児童・生徒

所在地　静岡県西伊豆町他

―プランの目的・ここがポイント！

伊豆半島の本州への衝突、プレートの沈み込み、火山活動等、伊豆半島をとりまく自然現象についての正しいイメージを地域や子どもたちに定着させることを通じ、自然災害への理解度と防災意識を高める。自然現象を知ることを通じ、災害を正しくイメージするとともに、自然からの恵みにも目を向け、備え・活用することができる地域づくりをめざす。

―プランの概要

・伊豆半島内の複数地域において、自然学習を通じ災害に対する理解を高めるためのプログラム作成。
・高校生を対象としたプログラムの試行をアンケート調査。
・小中学生を対象としたプログラムの実施。
・学校と児童生徒からのアンケートをもとにプログラムの改良。
・実施マニュアルの作成。

―期待される効果・ここがおすすめ！

・自分たちの住む場所の成り立ちを知ることにより地域に誇りを持つ、と同時に起こりうる災害を知り備える。
・体験や実験を通じて身近な自然を知ることにより「脅しの」や「知識」に頼らずに防災意識を向上することができる。
・学校教育とジオパークの連携。

―成果として得たこと

・伊豆半島内の複数地域（東伊豆・中伊豆・西伊豆地域）に対応した自然学習プログラムを作ることができた。
・本州に衝突した火山島としての伊豆半島の歴史を伝えることを通じ、これからおこる地震や津波に対する認識を高めることができた。
・身近な火山噴出物や火山地形の観察や実験を通じ、火山噴火に対する理解を向上することができた。
・上記プログラムを補助するための実験メニューを開発した（枕状溶岩実験、パリパリ溶岩実験など）
・プログラムの実施にあたっては、学校や地元企業（採石場や遊覧船）との連携を図ることができた。
・身近な自然の観察を主体としたプログラムを通じて、防災意識を向上させるためのメッセージはある程度伝わることを確認できた（アンケート結果より）。

―全体の反省・感想・課題

・本プログラムは、身近な自然観察から、居住地域に起こりうる災害に対する理解を深め、防災意識を維持してもらうことを目的としており、具体的な防災対応を伝えることは主な目的としていなかったが、具体的な防災対応の重要性に関してもあわせて伝える必要がある。

―今後の継続予定

・試行を行った学校では、次年度以降も継続実施する予定。
・同様のプログラムをより多くの学校で使ってもらえるよう、教育委員会等との連携を強める。

⑧ 気仙沼市立階上中学校

プラン名 「自助・公助」

プランの対象 中学生

所在地 宮城県気仙沼市

―プランの目的・ここがポイント！

○「知る」「備える」「行動する」を視点とした実効性のある防災学習。
　→東日本大震災による被災の反省から、正しい知識や十分な備え、日頃の訓練の充実を図る。
○「自助」を基盤とした「公助」への取り組み。
　→公的機関の役割やＮＰＯ等の活動内容などを学ぶと共に、地域の復興に向けて考えを深める。

―プランの概要

○ＮＰＯの代表者による防災講演会
○仮設住宅居住者との合同避難訓練
○学年毎防災体験活動
○消防署員を講師とした「公助」学習会
○地区毎の一次避難訓練と小中合同の児童・生徒引き渡し訓練
○避難所設営訓練
○ショート訓練
○防災学習発表会

―期待される効果・ここがおすすめ！

○公的機関やＮＰＯ等の活動内容を学ぶことで、災害時に「公的機関の支援が来るまでに中学生できること」を考え、様々な訓練の充実を図る。
○地区毎の一次避難訓練や小中合同の児童・生徒引き渡し訓練、防災学習発表会などを通して、「震災を風化させてはいけない」というメッセージを地域に送り、各家庭や地域住民の防災意識の高揚を図る。

―成果として得たこと

○東日本大震災の経験から、地震・津波災害について正しい知識や十分な備え、日頃の訓練の充実を図ることができた。今年度のテーマである「自助・公助」のもと、「知る」「備える」「行動する」を視点とした実効性のある防災学習を実践することができたと考える。消防署員を講師とした公助学習会やＮＰＯの代表者による講演会をとおして災害時の公的機関の役割などについて学ぶことで、公的な支援が来るまでに中学生ができることについて考えることができた。また、そのことを避難所設営訓練などで生かすことができた。

―全体の反省・感想・課題

○今年度の本校の防災学習においては、所期の目的を達成できたと感じている。引き続き「自助」を基盤とし、「知る」「備える」「行動する」を視点とした実効性のある防災学習の実施や地域との密接な連携が大切である。また、被災地においても避難訓練の参加率が低い地区があるなど防災に対する意識の低下が感じられるので、災害の風化防止にも努めなければならない。そして、将来に向けて災害に強い地域社会を再構築するために、復興教育にも力を入れていく必要があると考える。

―今後の継続予定

○次年度のテーマは「自助」である。「自分の身を守るために自分たちでできること」を中心に、災害についての正しい知識や理解、災害発生時・後に必要とされる判断力・技能を身に付けるための活動を行っていく予定である。具体的には、フィールドワークを行い、自分たちが住んでいる地域の避難経路や高台などを再確認することや非常持ち出し袋についての講習会、また、様々な状況下で地域と連携した避難訓練などを行うと共に、自分の将来への「つながり」の大切さを考えさせていく。

⑨ 御嵩町立上之郷小学校

プラン名　すすんでやりぬく上之郷の子プロジェクト

プランの対象　小学生　　**所在地**　岐阜県御嵩町

―プランの目的・ここがポイント！

過去の災害体験が少ない地域特性のもと、地域住民・保護者・関係機関と協力して多様な防災訓練を実施し、児童に自分の命は自分で守る力を身に付けさせるとともに地域住民・保護者・児童の防災意識を高める。「月一回防災の日」を設定し、防災朝活動・命を守る訓練・防災教育の観点を位置づけた授業を実施する。体験を重ね、児童の防災意識を高め、生き抜く力を身に付けさせる。

―プランの概要

1．防災教育の観点を位置づけた教科・道徳・学級活動・総合的な学習の時間の授業実践・授業公開
2．「月一回防災の日(ぼうさい かみのごう)」の取組
　停電想定生活・防災朝活動・命を守る学習
3．地域住民・保護者参加の防災訓練・防災研修の開設
　防災教育講演会・町防災訓練参加・近隣地区との合同防災訓練・災害図上訓練・減災活動

―期待される効果・ここがおすすめ！

○児童が災害への理解を深め、身の守り方を身に付け、自ら判断し、行動することができる。
○地域住民と連携した各種防災訓練を実施することで関係者の関係作りが進み、児童が地域を守るために活動している人や活動内容を知ることができる。
○減災対策・多様な防災訓練・児童用自助パック準備・Myハザードマップ作成配布を通して保護者・地域住民の防災意識を高めることができる。

―成果として得たこと

○意識調査から「災害時の避難場所を家族で決めている」「防災グッズを準備している」などが２年間で３０ポイント以上伸び、保護者・児童の意識が向上した。中でも「懐中電灯を持ち出せるようにしている」は、全児童の９０％が「はい」と答え、必要性を理解している。
○多様な「命を守る訓練」実施上のノウハウ・手順・人的資源などを把握できた。
○教科・道徳・学級活動の授業に「防災教育の観点」を位置づけることで防災意識を高められることがわかった。岐阜県下に授業公開した所、これらの授業を参観者が安心感をもって受け入れ、岐阜県下に防災教育の具体を広められた。また、学校ホームページにデータ加工可能にして指導案・命を守る訓練実施計画等を公開したことも好評を得ている。

―全体の反省・感想・課題

学校・家庭・地域が連携して防災教育を推進したため、児童の命を守るための備えが進み、防災への意識が高まった。児童にも災害に備える心構えやスキルが身に付きつつある。教職員５名が防災士になり、知識・技能を身に付け、防災への意識が一段と高くなった。

地域では消防団長も防災士となり、防災リーダーとして地域の核となる人材に育ちつつある。課題は、今後も防災教育を継続できる体制づくりである。

そのために上之郷小学校区防災教育推進委員会がﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟをとる場面を増やし、地域から学校に要望・意見が出せるよう今から働きかけをしていきたい。

防災ｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞの様子

―今後の継続予定

・地域との連携として「御嵩町防災訓練への参加」「近隣自主防災会との合同防災訓練」を継続。
・「防災教育の観点」を位置づけた授業実践の継続
・「月一回防災の日」の防災朝活動内容を検討し、他校で使いやすいものに改善
・新規に防災キャンプ（４年生）を計画、児童防災委員会を設置

⑩ 八千代市立みどりが丘小学校 学校支援委員会 環境整備部

プラン名 みどりが丘小学校サバイバルキャンプ！

プランの対象 児童（１～６年生）、一般・地域住民

所在地 千葉県八千代市

―プランの目的・ここがポイント！

昨年からの継続していくことによって成果を出していきたいと今回も参加することになりました。

子ども中心のキャンプづくりから、地域も巻き込んで進めいくことで、街の防災力を強化するとともに、学校を中心としたチームづくりをしていった。企画が二回目ということがあって、防災に担う人材が徐々に増えるとともに、自分たちで考えることも必要と認識の広まりがあった。キャンプがきっかけで、近隣連携として千葉県立八千代特別支援学校との交流を進められていくきっかけとなりました。

―プランの概要

前半は、一泊のサバイバルキャンプを通しての地域・学校の関係を強化してくとともに、自分自身での防災力の向上を目指して行った。後半は、キャンプの経験から子どもたちに対しては、災害時の弱者児への配慮を考えるとして、特別支援学校との交流を行った。一般では、子どもたちの交流事業と、特別支援学校との連携強化として、自閉症の子供向け避難所コミュニケーションツールを開発することになった。

―期待される効果・ここがおすすめ！

一泊のキャンプをするだけで、自助・共助の仕組みがわかってきます。また、学校力の強化にも結び付けることが可能です。地域・家庭・学校と共に防災・減災を進めていくことに最適な企画だと思います。災害弱者児に対するコミュニケーションツールは、一般的な避難所において発生するであろう対応において、困らないように開発していますので、今後一般避難所に配置することが望ましいと思います。

―成果として得たこと

継続した取組によって、防災へのソフト面が高まっていくことになった。特に、防災機器の操作設営などが一般の人でも設営できるようになってきた。防災というと、身近でありそうだけど、実際は遠い存在ではあったが、このような取り組みによって成長することができます。常に単純ではありますが、「繰り返し・繰り返し」行うことが熟練度を上げると共に、常に大事だと思います。
また、継続した企画を続けることで、反省点を活かしていけることになりましたし、地域との広がりをつかめました。

特別支援学校からの助言によって、開発した災害時弱者児に対するコミュニケーションツールができることも特筆に値すると思います。

―全体の反省・感想・課題

参加者が去年よりもやや増加したものの、児童の割合は１５％さらに街の広範囲に参加を求めるためには、色々なＰＲとバックアップが必要だと思っています。

この活動によって、防災対策への考え方に対する、芽が出てくるようにしていきたいと思っています。

―今後の継続予定

八月には、防災キャンプを行う予定である。夏の恒例行事になっていくことと、継続することで、ソフトパワーの蓄積にもつながり、街の一つのキャッチコピーになると思います。「私達の街は、安心・安全に取り組みます」という、前向きな目標になっていくことになります。

⑪ 高知県立室戸高等学校

プラン名　「ジオ学で防災教育を」

プランの対象　生徒、地域住民　　**所在地**　高知県室戸市

―プランの目的・ここがポイント！

ジオパークという地震発生のメカニズムを実感できる、自然に恵まれた土地で生徒の成長を計った。

学校や地域が用意したものではなく、生徒が主体的に活動するということが第一の目的である。自らが動いて活動し、地域住民とのコミュニケーションの中で、既存のハザードマップをより有効に利用できるように、住民一人一人に合わせた避難経路や減災のための計画作りを行い「避難カルテ」作成を目指す。

―プランの概要

高知県立室戸高校では、室戸ジオパークや地域住民と連携し、選択科目として「ジオパーク学」を開講している。この学習は地域の地質遺産や文化遺産、そして観光や減災への活用を目的としている。また、そのジオパーク学に加え、地域安全協力隊など対外的に活動の範囲を広げる室戸高校生徒会が本プランの活動の軸となる。年度当初、「室戸」という土地理解の為にジオパークについての全校講演、室戸ジオパーク推進協議会主催のサマースクールに参加する。また、炊き出し訓練、避難訓練、ボランティアセンター立ち上げ訓練などを行い、年度末に地域住民に聞き取り調査、避難カルテ作成を行う。

―期待される効果・ここがおすすめ！

人材育成が一番のテーマであると考えている。逃げることを諦めている地域のお年寄りが高校生との交流を通して生きる希望を持ち、減災に対する意識を高めることが期待できる。また、この活動を通して、地域の防災リーダーとして高校生が担う役割が増え、さらに地域に対する思いを強めていくと期待している。

―成果として得たこと

防災教育チャレンジプランに採択されたことで、これまでより強く、地域の防災、減災を高校生が積極的に考えることができるようになった。教員が関われば聞き取り調査など簡単にできるのかもしれないし、各役所や地域の代表機関に問い合わせることもできる。しかし、それでは人材育成はできない。時間は大変かかったが、自分たちで「避難カルテ」作成の対象の方々を見つけ、実際に行動できた。その成果として、それぞれの方の気持ちに沿った「避難カルテ」の作成ができた。逃げることに消極的だったお年寄りに、高校生と関われたことで元気になって、逃げてみようと思うという感想をいただけた。高校生が主体的に活動できたためにできた成果であると考えられる。経験を深め地域の防災リーダーとして成長していくことができ始めたのではないだろうか。

―全体の反省・感想・課題

新聞やテレビなど報道機関に積極的に取り上げていただいた結果、地域住民、県内の方々にこの活動を広く知っていただくことができた。そのため、市外の防災フォーラムにも生徒が参加することもできた。ジオパーク学ではジオパーク観光としてジオツーリズムの実践をおこない、その観点から室戸の観光面での防災を考えることができた。ただ、やはり授業という制約があるため実質的な活動は生徒会が主になってしまったことが反省点である。

―今後の継続予定

「避難カルテ」をより多くの方々に届けることができるよう継続して活動していく。

⑫ 社会福祉法人 大阪市鶴見区社会福祉協議会

プラン名 福祉避難所開設訓練 ～災害救助法の活用を目指して～

プランの対象 行政・福祉施設、地域住民

所在地 大阪府大阪市

―プランの目的・ここがポイント！

災害救助法に基づく、避難所の設置・運営に当たり、災害時において要援護者にどれだけの支援が可能になるのかを検討しながら災害時において多くの人命を救い最大限の支援が行える体制作りを目指します。その中で、実際に福祉避難所開設訓練を実施し福祉避難所のイメージを高めその必要性を知ってもらいます。

―プランの概要

・わかりやすい福祉避難所開設マニュアルの制作。
・行政・福祉施設・地域住民と連携した防災訓練と福祉避難所開設訓練を同時に開催し充実を図っていく。

―期待される効果・ここがおすすめ！

・福祉避難所開設訓練を継続実施することで、危機感を現実のものとし、有資格者(看護師、ヘルパー等)と連携する事で福祉避難所でのマンパワー確保への期待ができる。
・福祉避難所ならびに災害救助法の知識を共有することで、地域-福祉事業所-行政との連携が強化される。

―成果として得たこと

協力者の必要性からアンケート調査を実施し、地域にお住まいの有資格者(看護師 他)に協力いただける手ごたえを得たこと。

―全体の反省・感想・課題

災害の少ない大阪なので、行政・施設・地域が訓練は実施するが危機感が希薄なので、これらと、コミュニケーションを取り連携を図るようにしなくてはいけない。そのためにも継続して実施していく必要性を強く感じている。

―今後の継続予定

今後も福祉避難時開設訓練を継続実施することで地域に潜在している幅広い年代の協力者や各種団体にも参加をうながし啓発活動にも努めるなど地域で支え合う仕組みづくりを構築する。

⑬ 九十九里町立片貝幼稚園

プラン名　まもろう！ぼくのいのち、わたしのいのち

プランの対象　幼児、教職員、保育士、保護者

所在地　千葉県九十九里町

―プランの目的・ここがポイント！
- 幼稚園児でも「自分の命は自分で守る」「自分で考えて行動出来る」ことを目指す。
- 小さい子対象なので、恐怖心を与えないように配慮しながら、防災意識を高めていく。
- 保護者、地域の方、近隣の幼稚園・保育所や未就園の子ども達にも本園の取組みを知らせ、防災・減災に関心を持ってもらえるようにする。

―プランの概要
- 近隣幼稚園・保育所との交流会や合同避難訓練時に、本園職員制作の教材を使い、防災についてわかりやすく指導する
- バザーや運動会等で、園の防災教育の取組みについて知らせ、地域の方にも参加していただき、防災・減災について関心をもっていただけるようにする。
- 園の日常生活の中でも指導している、順番に並ぶ・きまりを守る・友だちと協力する等々が、防災教育につながるので保育者が意識しながら指導し、子どもの防災への意識・関心を深める

―期待される効果・ここがおすすめ！
- 防災教育が日常化されることで、いざという時に自分で考え落ち着いて行動できるようになると思われるし、子どもの変化の様子から保護者の関心も深まってくると思う。

―成果として得たこと
- 徐々にだが、子ども達が訓練でも自分で考えて行動出来るようになってきた。
- 遊んでいる時、食事の時、プールの時等々、「もし今地震が起きたら…」どのように行動すべきか、いろいろな場面を考えて実践し、反省・問題点について職員会議で話し合った。まだまだ課題が多く、よい解決策が見当たらないが、繰り返すことでヒントを得られることもあるので、継続が大切だと思う。
- 防災に関する活動を各年齢で取り入れ、運動会の競技種目にしたり発表会で保護者の前で披露した。制作や劇など友達と協力し、やり遂げたことで子ども達は達成感を味わえたし、保護者や地域の方には、子どもたちの活動を通して防災への関心を深めてもらえた。

―全体の反省・感想・課題
- 防災が一過性のもので終わることなく、日常生活の中に“当たり前”となる様に指導する必要がある。習慣化される様に配慮しなければならないと思う。いざという時に自分で判断し行動出来る様、年齢に応じた指導の重要さを痛感している。小さなことでも出来る事から一つずつ行っていこうと思う。

―今後の継続予定
- 園児には、引き続き防災訓練や教材を用いて繰り返し指導していく。
- 園から保護者や近隣幼稚園・保育所、地域の方に防災について発信することで、防災意識を高めてもらい、自主的活動につながるようにしたい。

⑭ 飯田市赤十字奉仕団

プラン名 郷土にまつわる災害伝承紙芝居の作成と活用

プランの対象 中学校の部、大学・一般の部

所在地 長野県飯田市

―プランの目的・ここがポイント！

これまで当地域を襲った災害について、自分たちが資料収集や聞き取り調査をはじめとした基礎調査を行いその災害史実を学びながら、その内容を多くの人々に周知し、かつ伝承していくための紙芝居を制作し上演することを目的としている。

紙芝居の制作や上演を通じて、その災害伝承に込められた思いを多くの人に伝え、被災地の復興や子どもたちのこれからに役立つものとしたい。

―プランの概要

- 昭和22年4月20日発生した飯田大火と中学生によって作られたりんご並木を題材とした紙芝居及び紙芝居DVDを制作する。
- 制作した紙芝居を、市内及び東北の被災地などで上演し、交流を深める。

―期待される効果・ここがおすすめ！

- 飯田大火の史実が多くの人に正しく後世に渡り伝承される。
- りんご並木の精神が広く多くの人々に伝わり、災害復興に対して主体的に考える人が多くなる。
- 紙芝居をDVD化することによって、活用の仕方や伝承の幅が大きく広がる。

―成果として得たこと

- 飯田大火の史実（戦後日本で最大であること、100戸以上の大火を7回も経験）を学べた。
- りんご並木誕生の秘話（誰が市と交渉したか等）を当事者から聞き取りできた。
- りんご並木を管理している飯田東中学校での上演及びDVD収録の協力も得られた。
- DVD制作にあたって、BGM選定にあたって著作権についても学習し、問題をクリアできた。
- DVDを配布することによって、多くのかたに観てもらうことが出来た。
- 上演によって、中学生をはじめとした飯田市民も詳しく史実を知ることが出来た。
- 福島の被災地の皆さんにりんご並木の精神を理解してもらうことが出来た
- You-Tubeにもアップし、より多くの方に観ていただくことができるようにできた。

―全体の反省・感想・課題

- 市民のシンボルでもあるりんご並木をテーマに作品を作ることが出来て嬉しかったし、反響も大きかった。
- より多くの人に、そして後世に語りついでいくものとして良い物が出来た。
- チャレンジプラン以外からの助成はないため、自己資金ですべてを賄っていくことは大変。

―今後の継続予定

- 前作品「恐怖の集中豪雨」と一緒に今後も上演していく。中学生とのコラボ公演も計画。
- 次作品は「遠山郷の集中豪雨―昭和40年と平成22年の大災害―」（仮称）を予定。資料集めを開始。
- 今後は県の支援を受けて紙芝居の絵本化にも着手したい。

⑮ 市原市立白金小学校

プラン名　地域とともにすすめる白金防災教育

プランの対象　児童、保護者、地域住民

所在地　千葉県市原市

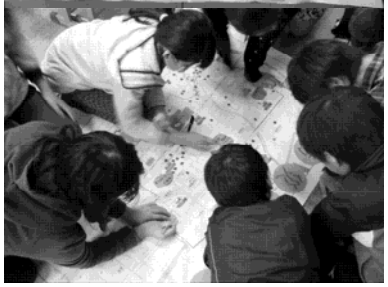
―プランの目的・ここがポイント！
- 家庭・地域とともに行う防災教育、防災訓練などにより、「自助」「共助」の防災意識を高める。
- 災害時（地震・津波・風水害など）の基本的な対応の知識・行動を身につける。

―プランの概要
- 学校・地域合同防災訓練と防災教育集会の実施。
- 中学年児童（保護者）による地域の「防災安全マップづくり」。
- 高学年児童による地域の「防災安全マップづくり」と「防災行動マニュアル」の作成。
- 家庭で「防災安全マップ」と「防災行動マニュアル」の確認。（避難経路･避難場所･連絡方法など）。
- 外国人保護者と児童が「防災行動マニュアル」翻訳に挑戦。（英語･タガログ語･スペイン語など）。
- 授業参観で「防災行動マニュアル」を活用した防災教育授業の実施。

―期待される効果・ここがおすすめ！
- 家庭･地域に役立つ「白金防災宝箱」（携帯用防災行動マニュアル）は外国語翻訳版もあり、今後も活用できる。
- 児童・保護者の防災への意識が高まる。
- 地域にすむ外国人への防災意識啓発のチャレンジ。

“子どもを主体にする”ことがおすすめです。体験することで、子どもたちは関心を持ち、活き活きとした表情になりました。

―成果として得たこと
- 「防災安全マップ」「防災行動マニュアル」作成に取り組んだ児童の防災意識が高まった。知識だけでなく、自分たちの目で確認しながら調べてまとめたことで、今まで以上に身につけることができた。低学年は「防災ダック」（日本損害保険協会）の実施により、楽しく基本行動を身につけた。
- 特に５年生は、総合的な学習の時間に自分たちで調べたり、体験（AEDの使い方・新聞紙のスリッパ・段ボールトイレ・サバイバルごはん等）したりすることを通して、防災への関心・意欲が高まった。基本的な防災行動を知ってもらうための「防災VTR」を作成し、低学年に教えることができた。
- 学校と地域との連携がより密になった。
- 「白金防災宝箱」（携帯用防災行動マニュアル・Ａ４版）が完成し、今後も家庭・地域に役立つものができた。
- 「白金防災宝箱」の翻訳作業を通して、防災意識が高まった。（英語版・タガログ語版など、地域の外国人にも役立つ）
- 児童だけでなく、教職員の防災知識と意識が高まった。
- 昨年、大きな被害をもたらした「フィリピン台風」の時には日本人児童の発案で募金活動が行われ、赤十字を通してフィリピンに送られた。（NHK・朝日小学生新聞などで紹介された）。



―全体の反省・感想・課題
- 12月に児童の発案による「避難所体験訓練」を急遽、計画参加者募集をしたが、参加者が少なく実施できなかった。
- 外国人保護者が翻訳に取り組むのがむずかしかった。地域に住む外国人のネットワーク作りが課題すべてを賄っていくことは大変。

―今後の継続予定
- 今後も学校・家庭・地域が連携した防災教育を進める予定である。

⑯ 港区立お台場学園港陽中学校

プラン名 私たちが守る地域　お台場

プランの対象 中学生、保護者
地域住民

所在地 東京都港区

―プランの目的・ここがポイント！

お台場は、昼間多くの大人が仕事で外に出ているため、中学生が地域防災の担い手の一員として、その活躍が期待されている。そこで、中学生全員で構成する「お台場学園防災Ｊｒ．ティーム」を組織し、災害発生時に適切に活動できるよう、日常的に訓練を実施している。

目的としては、中学生が防災の意識を高め、より充実した防災訓練・活動を行えるようになることや、中学生が主体となって地域住民に働きかけ、適切な防災活動ができるようになることである。

―プランの概要

・被災地の現状を知るため、東日本大震災で被災地となった場所に生徒及び教員を派遣する。
・震災を体験した現地の中学生や教員、教育委員会の方と会談することによって、防災に対するノウハウや、離れている地域に期待していることなどの生の声を聞き、防災について学ぶ機会とする。
・学んだことを台場地域に広めるとともに、自分たちで何ができるのかを考え、地域住民に提言する。
・自主的に防災活動に取り組む生徒を育成する。

―期待される効果・ここがおすすめ！

現在、震災の報道が少なくなり、東日本大震災の記憶が希薄になりつつある。事実、生徒自身もテレビを通じて当時の様子を知るのみであり、それが防災訓練に対する意識の低下表れていた。しかし、被災地を実際に訪れることで被害の大きさを目の当たりにし、防災に対する意識の向上につなげる。他の生徒や地域住民と情報を共有することで、地域が一体となった防災活動を展開できるようにする。

―成果として得たこと

被災地訪問の報告を兼ねて、道徳の時間に「命の大切さ」についての授業を行った。改めて、震災の恐ろしさや、生きている意味、防災訓練の意義について考える機会となった。また、現地の人達の「東日本大震災のことを忘れないでほしい」という願いにもつながった。

この授業を発展させ、本校の学芸発表会においては、東日本大震災をテーマにした劇を演じた。この劇では、今後、自分たちがどのような姿勢で防災訓練に参加すべきか、地域の一員として何ができるのかを提言する場面があり、この被災地訪問で得たものを広める機会となった。児童、生徒からは「忘れかけていたものを思い出すことができた」保護者からは「とても感動的で大人も考えさせられる内容であった」などの感想をいただいた。

その後、行われた区の防災訓練に対する生徒の姿勢も変化した。特に、地震や火災における総合訓練では、参加している児童、生徒も真剣な態度で臨んでいた。また、地域の備蓄倉庫などを確認する活動にも積極的に参加する生徒が増えてきた。

―全体の反省・感想・課題

被災地を訪問し、震災を体験した方々と対談することで、防災意識の向上に大きく寄与した。学んだことも地域に広めることができ、今回のプランの目的は達成できた。防災訓練においては、機器の取り扱い方に関する知識や技能の習得は達成できたが、それらがしまわれている備蓄倉庫が地域のどこにあるのかを把握できていないことが課題として明らかになった。

―今後の継続予定

被災地には、継続して訪問し、復興の様子を調べ地元へ報告していきたい。また、児童、生徒、地域住民も迅速な対応ができるように、備蓄倉庫などの場所を一覧にしたマップの製作を働きかけたい。

⑰南阿蘇村立久木野中学校

プラン名　「自らの命を守り抜く」防災教育

プランの対象　生徒

所在地　熊本県阿蘇郡

―プランの目的・ここがポイント！

九州北部豪雨の経験から、自然と向き合い、自然災害に備える主体的姿勢を育むとともに、自らの命を守り抜くために判断し、行動するという態度を身につけることを目的としている。「防災教育」を中心とした「安全教育」を家庭や地域を巻き込んで行うことにより、生徒一人一人の防災力を高め、ひいては地域の防災力の向上につなげることができると考える。

―プランの概要

自主防災訓練の実践

- 様々な想定を取り入れた訓練。
- 地域関係機関と連携した訓練。
- 学校安全委員会との連携、総合的な学習の時間の実践。
- 九州北部豪雨被災地から学ぶ。
- 縦割り班（ＡＳＫ班）による探求学習。
- 地域の素材、人材を活用した防災学習。
- 地域の自然、環境の調査。

防災の視点に立った授業実践

- 特別活動、総合的な学習の時間、道徳、各教科。

―期待される効果・ここがおすすめ！

- 生徒一人一人の防災意識が高まり、災害時に対応する知識や実践力が身につく。
- 地域教材を利用することで、郷土愛が育つ。
- 中学生が中心となって防災教育を行うことで、地域への啓発へとつながる。

―成果として得たこと

特別活動における「安全学習」で危険を予測する方法を理解し、と自主防災訓練を中心とした「安全指導」で実践的な力をつけ、さらに「安全学習」で振り返るという一連の流れを取ることで、状況判断して行動することができ、さらには「安全」についての意識が高まってきたということがいえる。

学校で取り組んでいる「安全教育」が、学校・家庭・地域が連携した「安全管理」にも良い影響を与え、組織としての「輪」へと広がり、それぞれの組織の活動に課題意識を投げかけることができた。

―全体の反省・感想・課題

自主防災訓練では、地震・火災を中心に行ったが、校舎の立地条件や学区内の地理的環境をとらえた火山活動や風水害等の訓練にも取り組む必要がある。

本校は緊急時における「避難場所」に指定されていない。しかしながら、非常時には急遽、避難所としての役割を果たさなければならない状況も考えられる。また、村内で指定された避難所においても様々な役割を担って活動する場面も必要となるため、「避難所」体験も取り入れていく必要がある。

―今後の継続予定

次年度は、これまで取り組んできた防災教育や地域との連携をどのように継続していくか検討が必要である。学校、地域、関係機関いずれも担当者が変わっても継続して取り組んでいけるシステムを構築していかなければならない。

MEMO

① 埼玉県立日高特別支援学校

プラン名　日高特支　防災意識向上計画　はじめのいっぽ

プランの対象　生徒、保護者
教職員

所在地　埼玉県日高市

プランの目的　児童生徒および教職員、保護者等の防災意識の向上
肢体不自由児特有の問題を明らかにし、その解決策を探ること

対象災害種別　埼玉県で想定されている「立川断層帯による地震」「東京湾北部地震」への対応等

☆☆☆

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点

摂食障害に配慮し、非常食を食べやすく工夫した試食会の開催。
専門家を招き、災害の意識を高めるための講演会。
家庭用ガイドブックの作成、テーマを決めたショート訓練など。

―全体の反省・感想・課題

職員研修等を通して、災害への意識が向上した。PTA や給食部、保健部、自立活動部等と連携し、あらゆる面から防災について取り組むことが出来た。教職員の意識を向上させるとともに、本校ならではの防災教育を作り上げる必要性を感じた。

―今後の継続予定

肢体不自由児校ならではの取り組みの充実。急時対応研修での教職員への共通理解、および災害組織各班についての動きを確認、課題の検討等。PTA、近隣市町、施設と連携した防災研修。

② 須崎市立新荘小学校

プラン名　災害は忘れた頃にやってくる

プランの対象　児童、保護者、
地域住民

所在地　高知県須崎市

プランの目的　災家庭の防災意識の向上、共助の心を培う

対象災害種別　地震、津波

☆☆☆

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点

本校の前には新荘川が流れており、南海地震の際には津波に襲われた。子ども防災キャンプで地域交流の枠を設け、津波災害の体験談を語ってもらう。防災ハンドブックを作製し、地区の全家庭に配布する。

―全体の反省・感想・課題

新荘地区防災連絡協議会と連携し、地域ぐるみの防災教育を更に進め、地域と一体となった取り組みを継続する。

―今後の継続予定

防災訓練前後の各学級での指導の徹底、振り返りの実施。新荘地区防災連絡協議会との連携。

③ 狭山市立柏原小学校

プラン名　柏原の防災リーダーになろう

プランの対象　小学校第四学年

所在地　埼玉県狭山市

プランの目的　学校・地区・市の防災対策を知り、家庭及び支援者に向けた防災マップの作成と紹介をし、防災意識を高める

対象災害種別　関東地区を中心とした地震と液状化現象

☆☆☆

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点

地域人材（市役所防災課、セーフティーリーダー）の活用をして授業を展開する。

―全体の反省・感想・課題

- 地域人材と４年生の基礎知識の隔たりを理解した上での資料作成
- 体験学習を通して児童の興味関心が高まった。
- 専門家の知識をより有効に活用するための打ち合わせ。

―今後の継続予定

- 地区の情報を防災マップ上に表現し、情報の更新を進める。
- マップ、新聞をワークショップ形式にして発表し、発表データを次年度に引き継ぐ

④ 尼崎市立琴ノ浦・城内高等学校

プラン名　地域に役立つ人になろう・夜間定時制高校ができる地域防災を考える

プランの対象　生徒・教員・地域高齢者

所在地　兵庫県尼崎市

プランの目的　地域防災に力を発揮できる生徒の育成

対象災害種別　地震、津波

☆☆☆

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点

夜間に災害が起こった想定で、地域の独居高齢者宅を生徒・教員で訪ね、安否確認や避難支援を行う。

―全体の反省・感想・課題

今年度は校舎の建替え工事が行われたため、思うように場所が確保できず、計画を変更・延期せざるを得なかった。懸案の地域住民との避難訓練は、新校舎完成後に行いたい。

―今後の継続予定

- 防災マニュアルの改善
- 防災避難訓練時に独居高齢者の安否確認

⑤ 兵庫県立神戸聴覚特別支援学校

プラン名 聴覚障害のある児童生徒の防災を考える

プランの対象 保幼・小・中・高・一般

所在地 兵庫県神戸市

プランの目的 聴覚障害者が災害に巻き込まれた際の適切な対応について

対象災害種別 地震、津波

☆☆☆

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点

海岸にも近く、津波による被害が想定されるなか、聴覚障害者をはじめ、地域の障害者がどのように連携して助け合うことができるのかを検討した。

―全体の反省・感想・課題

地域との連携を更に深めるため、日頃からの相互連絡などが大切だと痛感した。

―今後の継続予定

次年度以降も実施の予定で、地域の障害者にとっての防災拠点になれるように今後検討を進めたい。

⑥ 竜南いのち守り隊

プラン名 環境といのちを守る街づくり２０１３

プランの対象 中学生、教職員保護者

所在地 愛知県岡崎市

プランの目的 地域力を高め、中学生ができることを考えて実行する力を育てる。

対象災害種別 地震

☆☆☆

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点

住宅街ゆえに、入り組んだ道や古い建築物が多いので、防災マップを充実させる。衣食住から考える防災学習。

東北の金ケ瀬中学校との協同防災学習に取り組む。

―全体の反省・感想・課題

東北地方訪問で切実感が高まり、学びが深まった。

地域の力を学びに取り入れることが課題。

―今後の継続予定

学びの集大成としての防災フェスタの実施。

⑦ 兜町町会

プラン名　兜町　地域防災連携

プランの対象　社会人・一般

所在地　東京都中央区

☆☆☆

プランの目的　町内の「共助」の取組みを推進するもの

対象災害種別　災害全般

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点

東京の都心に位置しており、昼間人口が夜間人口の18倍という地域特性がある。住民だけでの防災には限界があるため、企業・商店と助け合える関係を構築していく。

―全体の反省・感想・課題

調整に時間がかかり、実践的な取り組みを行えなかったが、今まで全く交流が無かった企業と住民が顔見知りになり、一定の関係を持つことが出来たことは成果だと感じている。

―今後の継続予定

共助関係を構築できるよう、引き続き、勉強会等を行っていく。合同での防災訓練等の実践的な取り組みを行いたい。

⑧ 秦野市教育研究所

プラン名　防災教育指導計画と防災プログラムの作成と実践

プランの対象　園児、児童、生徒
教職員

所在地　神奈川県秦野市

☆☆☆

プランの目的　自助の心と共助の心を培う～幼小中一貫防災教育実践集を通して～

対象災害種別　主に地震

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点

幼稚園・こども園、小学校、中学校が隣接している地域が多く、発達段階や校種間の一貫性を考慮している。

―全体の反省・感想・課題

教師自身の防災教育に対する意識を高め、実践を積み重ねていく必要がある。

―今後の継続予定

各校で実践したことを振り返り、防災教育年間計画へ反映させていく。

⑨ 千葉県立銚子高等学校

プラン名　銚子ジオパークを利用した防災を考える

プランの対象　千葉県立銚子高等学校　　**所在地**　千葉県銚子市

プランの目的　学校が避難所となった時の対応・ハザードマップ。

対象災害種別　地震発生時の対応（避難所）、ハザードマップ

☆☆☆

―地域特性に応じたアレンジ・工夫点

学校が避難所となった時の高校生の対応について考えた。
銚子ジオサイトは海に面しておりいざというときのハザードマップは観光地銚子に対しても有効ではないかと考えた。

―全体の反省・感想・課題

８月に行った地域住民との防災学習（炊き出し訓練・避難所運営訓練）は、かなりの反響があった。これからは毎年の行事として取り組んでいきたい。

―今後の継続予定

来年度からは、もう少し人数を増やして防災教育に取り組みたい。

MEMO

防災教育チャレンジプランに期待する

東日本大震災の発生から３年がたとうとしています。この間に得られた教訓は、２１世紀前半に発生が確実視されている南海トラフ地震や首都直下地震のような広域にわたる巨大な地震災害を乗り切る上での大きな資産です。それを活かして巨大災害に立ち向かう主役は１９８０年以降に生まれた若い人たちです。若い人たちが、自分自身を守り、お互いに助け合っていける力を育んでおくことが、この国の将来にとって不可欠です。これは学校だけの仕事ではなく、学校・地域・家庭が協力してさまざまな試みを重ねていくことが大切です。

東日本大震災の被災地には防災教育チャレンジプランの実践団体が１１ありました。しかし、今回犠牲者が出ることは一人もありませんでした。その一つである釜石東中学校の例に代表されるように、日頃からの防災教育の有効性が証明され、その価値が見直され、防災教育に対する関心の高まりが見られています。こうした素晴らしい成果は、若い人たちの防災に関わる能力の向上を図るための素晴らしいプランをたくさん集め、それらを多くの人々に紹介する「防災教育チャレンジプラン」の取組みの重要性を再確認させてくれました。

今年度は、一般枠３０団体、入門枠１５団体、合計４５団体の応募をいただきました。どれも素晴らしい内容でしたが、予算の制約があり、今回はその中から一般枠１５団体、入門枠１０団体のプランを選ばせていただきました。防災教育の内容をできるだけ多様にできるプラン、いろいろな場所でできるだけ幅広い層が関われるプランへと成長してほしい「たね」を重点的に選ばせていただきました。選ばれた各団体はいろいろな面で「チャレンジ」し、今後の防災教育を推進する上での共通の資産を増やすために努力をしてください。

今回選ばれた皆さんのプランが今日をスタートとして、１年間の実践を経て大きな実を結び、来年２月の活動報告会に成長した姿で戻ってきてくださることを期待してやみません。

防災教育チャレンジプラン実行委員長
京都大学防災研究所巨大災害研究センター 教授
林　春男

東日本大震災を教訓として、全国で大規模地震・津波対策の大幅な見直しが行われており、海岸堤防の整備などのハード対策とともに、「命を守る」という観点から住民の円滑な避難の確保に向けたソフト対策を組み合わせた総合的な対策が必要となっています。

被害を軽減するためには、特に、一人ひとりが主体性を持って避難するという事が非常に重要です。このため、自然災害に関する知識、各地域の土地の成り立ち、災害の危険性や各種災害への対応方法を学び、災害により発生しうる様々な状況について想像力を駆使して事前準備をすることが重要であり、行政、学校、家庭、各種の団体や地域の連携など様々な形で取り組んでいくことが最も大事な防災対策となります。昨年の災害対策基本法改正においても、このような地域の取組をしっかりと支援し、防災対策に活かす観点から、地区防災計画制度を創設したところです。

防災教育チャレンジプランを通じて、皆様の取組が大いに発展し、個人個人や地域における防災力のさらなる向上につながることをご期待申し上げます。

防災教育チャレンジプラン実行委員
内閣府政策統括官（防災担当）付 参事官（調査・企画担当）
藤山　秀章

2014年度実践団体の紹介

【1】静岡大学教育学部藤井基貴研究室

プラン名　教職を目指す大学生がチャレンジする新たな防災教育

応募部門　大学・一般の部　　**所在地**　静岡県静岡市

☆☆☆

―目的・特徴等

児童生徒の防災知識および災害時の「判断力」、「行動力」を育てるための教材および授業を開発し、実践・普及を進めます。具体的には、1）2013年度に開発した防災紙芝居「みずがくるぞ!!!」の教育実践と普及活動、2）2011年度および2012年度に開発した防災授業「防災道徳」の授業改善と普及活動、3)すべての教育課程および学校種で導入可能な授業案及びカリキュラム・デザインを検討し、提案を目指します。

―団体紹介

私たち藤井研究室では、防災教育の授業づくりや新たな教材開発に力を入れています。志を同じにする他大学の学生たちや専門家の方々とのつながりを大切にしながら、新たな知識と刺激を受けて、より良い防災教育を生み出せるよう活動しています。また、地域の行事に防災ブースを出展したり、近隣の小・中学校に出向いて授業をさせていただいたりと実践的な活動も多く行っています。防災を授業に取り入れていくにはまだまだ課題も多いですが、実際に学校の授業で使ってもらえる教材を提案できるよう日々奮闘中です。

【2】上富田ふれあいルーム

プラン名　上富田ふれあいルーム防災年間計画！

応募部門　小学校高学年の部　　**所在地**　和歌山県西牟婁郡

☆☆☆

―目的・特徴等

上富田ふれあいルームでは、毎月の季節の行事に、防災に必要な知識と体験を取り入れることで、自然に楽しく、防災を学べる計画をたてています。実際の災害時に自分たちに何ができるかを具体的に考え行動できる、避難所では災害時要援護者に気づくことができる小学生を目指します。また、この地域の特徴から、水害による被害の可能性が高いため、それらに対処する内容を学習します。

―団体紹介

上富田ふれあいルームは、放課後子ども教室として、朝来小学校の３～６年生が、毎週土曜日に２時間ほど朝来児童館に集まり（年間４８回）、手芸、工作、切り絵、季節の行事、海外の行事、防災教室等を楽しんでいます。子供エコクラブ（あっそ児童館エコクラブ）にも登録し、リサイクル工作や、環境問題も学習しています。年に数回、社会見学として、バスなどで出かけることもあり、多彩な経験ができます。H２５年度の登録者は約４０名。学校とは違う自由な空間で、みんなのびのびと積極的にいろんなことにチャレンジしています。

【3】仙台市立南吉成中学校

プラン名 南吉成中学校と地域が協働する防災教育活動プラン

応募部門 小学校高学年、中学校、大学・一般の部　**所在地** 宮城県仙台市

☆☆☆

―目的・特徴等

東日本大震災では防災・減災等に関する様々な課題が露呈し、その解決に向けた実践的な防災教育が必要かつ重要である。本校では中学生が主導する地域防災訓練を実施することで、現在および将来を含めた地域防災の担い手を育成し、災害時の率先行動者を育み、住民を巻き込む教育実践を目指している。さらには、市内の被災状況と現況を知り、復旧・復興に向けた支援活動を行い、奉仕的精神と自己有用感を育成する。これらの実践により、大震災の教訓から防災・減災文化の構築と継承の在り方についても追究していく。

―団体紹介

本校は全校生徒３２０人で、普通９、特別支援２の計１１学級である。大震災では校庭の法面崩落やプールに被害を受けて、平成２４年末に復旧工事が完了している。本校は仙台市西部の丘陵地域に位置しているため、津波被害は受けていない。そこで、平成２４年度から、津波被害を受けた沿岸部農家の復興支援として、夏と秋に綿花畑の除草や綿花収穫を手伝っている。また、校内・炊き出し調理コンテストや、被災地・仙台の復興シンボルイベントである「仙台七夕」と「光のページェント」にて清掃奉仕活動を行っている。次年度にはさらなる防災教育の拡充を図ることにしている。

【4】新潟市立小針小学校

プラン名 災害から助け合う「小針防災五人組制度（こばりぼうさいごにんぐみせいど）」の結成

応募部門 小学校低学年の部、小学校高学年の部　**所在地** 新潟県新潟市

☆☆☆

―目的・特徴等

災害時に近隣住民で助け合うことは大切なことである。しかし地縁が薄くなっている現代では、近隣住民同士が声をかけ合うことすら難しくなってきている。そこで、小針小学校では、学校の「地域子供会」を活用して、「子ども防災五人組」を結成する。そこに自治会役員・民生委員・保護者の協力を得ながら、地域の防災計画を作ったり、避難訓練をしたりして災害への意識を高め、地域の防災力を高めていきたいと考えている。

―団体紹介

小針小学校は、新潟市の西に位置する。地域は昭和３０年ころから住宅地として発展し、人口が急増したため、４つの学校が新設分離された。児童数は現在７００弱の比較的大規模校である。教育に対しての保護者の意識は高く、協力的で、児童も落ち着いている。近くに新潟大学があり、学生との交流も盛んである。地域のコミュニティー協議会や自治会の活動も盛んで、「小針納涼大会」「もちつき大会」「かくし芸大会」などの学校と地域の連携事業が行われている。今後、地域の教育力を学校教育にさらに活かしていきたいと考えている。

【5】竜南いのち守り隊

プラン名 環境といのちを守る街づくり２０１４

応募部門 中学校の部　　**所在地** 愛知県岡崎市

☆☆☆

―目的・特徴等

震災後の生徒の「防災意識」の高まりは感じるが、十分な行動化へは至っていない。そこで、本プランではまず、主体的に学びに取り組むことができるよう、体験学習を充実させ、生徒に切実感ある防災意識を深めさせたい。そして、学びによって得た知識を生かして、日常生活の中で「防災行動」をとることができるようにしたいと考えている。

そのために、行政機関、専門家、他団体との連携・交流を充実させ、最後に学びの発信の場を設けるようにしたい。

―団体紹介

本団体は岡崎市立竜南中学校の全生徒・職員から組織され、総勢６５０人程度となる予定である。その核となるのは中学校３年生約２００人であり、１・２年生の時には環境教育を中心に学習を進めてきた。この「環境を守る姿勢」と、防災学習によって得る「いのちを大切にする姿勢」を目標の中心に据え、学習活動に取り組んでいる。成果は、防災フェスタなどの行事を通して地域へも広がりを見せている。

将来、生徒が社会に出た際に、地域の環境といのちを大切にし、「持続可能な社会を守る」ことのできる社会人の基礎の育成をしたいと考えている。

【6】埼玉県立日高特別支援学校

プラン名 日高特支　車椅子の子どもたちを守る！防災力向上計画

応募部門 小学校低学年～高等学校の部　　**所在地** 埼玉県日高市

☆☆☆

―目的・特徴等

これまでの取り組みで教職員及び保護者へ防災対策の必要性と、いつ大きな災害が起こるかわからない、という危機意識を高めることができた。今プランは肢体不自由校という特徴に考慮しつつ、児童生徒へのより具体的な防災教育の実践を行なう。「特別」ではなく「いつも、日常」として、学校生活で取り組んでいることを防災教育につなげられるプログラム作りと共に教職員の実践力の向上を目指す。教職員や保護者、近隣住民や市との連携を図り、様々な立場に人に参加してもらうことで一緒に肢体不自由児の防災対策について考えていく。

―団体紹介

本校は埼玉県西部にある中規模の肢体不自由特別支援学校である。２５年度は避難訓練の工夫（緊急地震速報を利用した抜き打ちのショート訓練）や摂食障害のある児童生徒に食べやすくする工夫をした非常食の試食会、講師を招いての学習会等を行った。校舎改修工事後、緊急安全点検を実施し、備品等の固定、安全な場所を確認した。また、災害時の引渡し訓練を実施し、災害時組織班毎に動きや課題等を確認した。その取り組みの成果として「我が家の防災ガイドブック」を作成し、保護者と近隣市町に配布した。

【7】香川県立盲学校

プラン名 災害弱者と言わせない！香川県立盲学校のチャレンジ

応募部門 保育園・幼稚園の部、～大学・一般の部

所在地 香川県高松市

☆☆☆

―目的・特徴等

宝永地震で２mの津波が城下を襲った高松。海岸線から２００m、標高２m、南海トラフ地震による震度６弱、最大予想津波高３mとされる盲学校と周辺地域は、地震・津波・火災への備えが喫緊の課題である。

プランでは、盲学校の「視覚障害教育の専門性」を生かした防災教育を推進するとともに、その成果の情報発信に努め、視覚障害者等の災害弱者の「自助」と、地域や行政との「共助」の体制を構築しようとする試みである。

―団体紹介

香川県立盲学校では、視力や視野等視覚に障害がある４～50歳の幼児児童生徒34名が、障害に応じた学習や職業課程の実習等に励んでいる。その約半数は校地内の寄宿舎から通学している。

これまで本校は、ＰＴＡや企業の協力による積極的な食糧等の備蓄を推進してきた。また、地域コミュニティと協働する防災訓練や備蓄食糧の試食会、文化祭などの機会を通じて本校防災の取り組みを紹介したりしてきた。

南海トラフ地震による震度６弱以上の確率が５８．５%に引き上げられたことを踏まえ、さらなる災害への備えにチャレンジしようとしている。

【8】糸魚川市立大和川小学校

プラン名 大和川小発！ジオパークの海と向き合う地域防災教育

応募部門 小学校低学年の部 小学校高学年の部

所在地 新潟県糸魚川市

☆☆☆

―目的・特徴等

糸魚川市が世界に誇る自然環境(ジオパーク)は、地域の歴史であり、宝であり、生活環境そのものである。「雄大で美しい海に面した世界ジオパークとしての大和川地域」に、児童が地域住民と共に生きていく上で、地域の自然災害の現状やその対策の方法を、児童、PTA、地域住民が協力・連携して学び合い、得た成果や課題を共有していく必要がある。この取組は「防災教育とジオパーク」の２つを関連付けた「防災教育プランの実践例(海、津波編)としての提案」「地域防災における学校、PTA、地域３者の連携に向けた取組事例としての提案」になると考える。

―団体紹介

当校は海沿いに校舎が立地している。児童は潮風を浴びて登校し、窓から雄大な海を見渡している。総合学習で、3年生は地域の宝物であるヒスイにスポットを当て、市内のジオサイトを巡りながら、地域の地形の歴史を学んだ。4年生は海洋高校の海洋丸に乗船し、漁業の方法や海洋生物について学んだ。このように児童は世界ジオパークに親しみながら学校生活をしている。反面、地震に伴う津波が心配されるため、津波を想定した防災教育を行う必要がある。また、2013年度、防災教育チャレンジプランに取り組んだ。同郷の根知小学校から助言を受け、PTAや地域の方々と共に歩みながら、津波対応の避難訓練、炊出し訓練など各種実践を重ねてきた。

【9】芦北町立田浦小学校

プラン名　地域から学び、地域とともに取り組む防災教育

応募部門　小学校低学年の部、小学校高学年の部

所在地　熊本県芦北町

☆☆☆

―目的・特徴等

○地域団体や関係機関、保護者と連携し、地域と一体になって防災意識を高める。
○地域に応じた自然災害を学んだり、避難方法を考え実践したりすることで、自分の命を守る力を育てる。

地域との連携を深め、防災意識の向上を目指した取組を実施していく。地域団体が参加する「防災フェスタ」や「防災教育講演会」を実施する。専門機関と連携した「防災・減災リーフレット」を作成・配付し、地域の防災意識の向上を図る活動を行う。

―団体紹介

田浦小学校は、熊本県の南部に位置し、全校児童２０７名（９学級）の学校である。昭和５２年７月、河川の堤防が決壊し多くの被害をもたらした水害にも見舞われている。平成２４～２５年度熊本県教育委員会指定の防災教育研究推進校として研究を進めてきた。防災教育において地域の実態に即し、地域団体との連携を重視した取組が必要だということが分かった。また、すべての学校教育活動に防災教育の視点として「知識、思考・判断」、「危険予測、行動」、「社会への貢献」の３視点を取り入れ、地域素材を生かした学習を行ってきた。

【10】周防大島町立城山小学校

プラン名　地域を見つめ、生きる力を育む防災教育

応募部門　小学校低学年の部、小学校高学年の部

所在地　山口県周防大島町

☆☆☆

―目的・特徴等

１．瀬戸内海地域の過去の事例を知ることで、危機意識を発揚する。津波到達を伝える伝承の現場を見学。大学教授の公開講座で地域も啓発。
２．防災教育関連資産を活用しながら、実践的防災教育を充実させる。急斜面を使った避難訓練。防災キャラ、カルタ、うたを活用した広報活動。
３．緊急避難活動を改善する。給水・給食・避難所運営・引き渡し等を含む総合避難訓練。

―団体紹介

・学校は、瀬戸内海で３番目の大きさの周防大島の中ほどに位置する。
・校区や島内に２０m級の津波遡上を伝える伝承が複数ある。
・２０１２年度山口県教委「実践的防災教育（地震・津波）」の推進校となる。
　山口大学教授の出前授業、避難訓練およびフィールドワークを実施。防災カルタを作成。防災キャラクタを公募。
・２０１３年度も津波避難訓練を継続し、地元音楽家と防災歌も作成した。
「ぼうさいのうた」をCDで配布。校区自治会が「津波到達碑」を建立。
・マスコミの取材に積極的に対応し、防災教育の取組を継続して広報する。

【11】一般社団法人 PORO

プラン名 障がいを持つ子のための楽しく学ぶ防災教育

応募部門 小学校低学年の部、小学校高学年の部

所在地 大阪府大阪市

☆☆☆

―目的・特徴等

発達障がい・自閉症など様々な障がいを持つ子のための防災教育活動を展開します。従来の障がい児者の防災では、支援者のエンパワーメントが中心的で、子ども向けの防災教育でもこだわりの強さという特性から、勝敗のあるゲームにはなじめない子がいるなどの課題がありました。本活動では子どもたちの残存能力や自助能力の向上という観点から、認知特性などそれぞれの障がいの特性に着目した防災教育に取り組みます。

―団体紹介

PORO では障がい者や高齢者とその支援者に対し、安全で安心できる生活に必要な情報および支援を提供する活動を行っております。障がい児者団体や高齢者施設と連携しながら、これまでに軽度発達障がい児向けの防災教材「災害に負けない防災ハンドブック」製作・販売、施設での傾聴活動、高齢者とその家族向けの「いざサポBOOK」製作・販売、地域住民や企業のための講演活動、活動の成果の学会発表（日本福祉文化学会、日本安全教育学会）を行ってきました。

HP：http://omoide-poro.sakura.ne.jp/

お問い合わせ用メールアドレス：info-poro@omoide-poro.sakura.ne.jp
事務所住所：〒541-0053大阪市中央区本町3-4-11丸寿ビル8F
TEL/FAX 06-6260-4727

【12】中津市立城北中学校

プラン名 「自分の命は自分で守る」防災教育

応募部門 中学校の部、大学・一般の部

所在地 大分県中津市

☆☆☆

―目的・特徴等

県の防災教育モデル実践事業「モデル実践校」の指定を受け、これまで２年間、「自分の命は自分で守る」～自助から共助・公助へ～を主題として研究実践に取り組んできました。「自助」「公助」「共助」を各学年のテーマとし、総合的な学習の時間を活用した３年間を１サイクルとしての系統立てた実践が、2014年度に完成します。

今年度は、これまでの実践を活かし、「地域における防災教育の実践」、「避難場所としての在り方を求める」ことに向けて道筋づくりを進めていきます。

―団体紹介

本校は、多くの観光客が訪れる福沢諭吉旧邸、黒田官兵衛の中津城を校区に持つ、全校300名の中規模の中学校です。中津川・山国川に挟まれ三角州状の土地（小祝地区）に位置し（海岸線より150m）、東岸に渡る三本の橋が災害時通行止めになれば、完全に陸の孤島となります。

小祝地区には、３階建ての建物は本校しかなく、地震や津波発生時に一次避難所になります。こうした地域の特殊性を考えながら、実践的な防災教育「自分の命は自分で守る」を推進し、意識と実践的な態度の向上に取組みます。

【13】防災腹話術研究会

プラン名 防災腹話術・手法の確立と展開

応募部門 小学校低学年の部～中学校の部

所在地 兵庫県神戸市

☆☆☆

―目的・特徴等

［目的］

1．防災腹話術を、防災教育の一手法として確立する。
2．防災腹話術実演者の養成。
3．防災腹話術の公演実施。

［活動］

1．教本の作成・教員、防災関係者、腹話術関係者等の参考となる脚本資料作り
2．防災腹話術の公演技術の向上と確立
3．仲間を募り、ネットワークを構築する（仮称「防災腹話術ネットワーク・防災腹話術連絡会議」等）。

―団体紹介

代表の荒井は、3年前から腹話術の教室に通い、腹話術を身につけつつありました。そんな時に東日本大震災が起こり、復興ボランティアの傍ら実践を兼ね、腹話術による笑いの出前をするようになりました。

実演しながら、ふと頭に浮かんだのが、腹話術による交通安全教室でした。「腹話術を使って防災教育をしよう！」そう思いました。

さっそく、腹話術の教室の仲間に声をかけ、有志を募り、立ち上げたのが当団体「防災腹話術研究会」です。よちよち歩きを始めたばかりの団体ですが、足跡がいつか防災教育の新しい道になればと願っています。

【14】NPO 法人防災白熱アカデミィ

プラン名 紙芝居によるリスク・コミュニケーション

応募部門 大学・一般の部

所在地 兵庫県神戸市

☆☆☆

―目的・特徴等

本プランは、災害弱者である高齢者の防災意識の向上、デイサービスセンター職員の防災教育、地域防災組織、コミュニティとの連携をはかることを目的として、デイサービスの送迎ルート、家族の支援の仕方、職員の緊急対応、デイサービス施設来訪者への地震防災のあり方を具体的に学ぶことを期待している。また、紙芝居の内容は、神戸・東日本地震の実例から適切なテーマを取り上げ、作成した紙芝居とリスクコミュニケーションリストを活用して、意識向上の進め方を探る。

―団体紹介

東北地震、神戸地震の被災を省みるとき、命を失わない地震防災・軽減を懸命に模索する必要があります。自然の災害は人間の英知や学問知見の隙間を突いて襲ってきます。残念ながら、地震に襲われるたびに多くの新たな教訓を得るのが現状です。しかし、われわれは、過去の地震災害から多くを学び、次なる大地震の備えをする必要があります。本ＮＰＯ法人は、過去の地震から学び、将来の災害安心社会を勝ち取るため、語り部会、サイエンスカフェ、セミナー、パソコン教室、被災者との交流会、震災学習ツアーなどの種々の活動を目指します。

【15】能代市消防団

プラン名 能代市消防団防災教育講座

応募部門 大学・一般の部　　**所在地** 秋田県能代市

☆☆☆

―目的・特徴等

一戸建てに暮らす子供の8割は2階で就寝しています。1階で火災が発生した場合、単独式の火災報知器では、2階の子供達が気付けず、避難が遅れてしまいます。住宅新築の際に火災報知器を設置する場合、単独式も連動式も経費は変わりません。防災教育講座で保護者に訴えるとともに、ハウスメーカーや設計事務所にも連動式の火災報知器の重要性を伝えていきます。また、家族防災会議を各家庭で開いてもらうための資料を提供します。

―団体紹介

能代市消防団は、旧能代市と旧二ツ井町の市町村合併に伴い、平成21年4月1日に旧市・旧町の消防団が合併し誕生しました。24分団739名で構成され、地域に根差した防火・防災活動をしています。秋田県内初となる少年消防団を平成22年8月に結成し、児童・生徒の防災意識向上に取り組んでいます。能代市は過去には2度の大火や、米代川の大洪水に見舞われるなど災害の多い地域であり、近年も大雨による水害に見舞われておりますが、消防団は市民の安心・安全のため日々訓練に励んでいます。

MEMO

【1】雄勝花物語 実行委員会

プラン名 雄勝町の震災体験を伝える語り部活動

応募部門 大学・一般の部　　**所在地** 宮城県石巻市・雄勝町

☆☆☆

―目的・特徴等

東日本大震災の大津波によって石巻市雄勝町は２３６名の死者・行方不明者を出した。この雄勝町の震災体験を語り部活動で伝える活動を通して防災意識を高め、防災教育に役立てることを目指す。

―団体紹介

雄勝花物語実行委員会は石巻市雄勝町で被災した代表が被災者支援を目的に設立した団体である。実行委員会の活動は代表が実母を津波で亡くした実家跡地で花を植え始めたことから始まった。多くの支援者の力を借りて、２０１２年からバラとハーブを主体にした雄勝ローズガーデンを造成した。無料開放のガーデンは被災者の癒しの場となっている。また被災地の緑化支援活動を行うとともに、被災地を巡る教育旅行や企業研修のボランテイアを受け入れて、震災語り部活動を実施している。

【2】静岡県立沼津特別支援学校 愛鷹分校

プラン名 自助力 UP!!　自分の命は自分で守る

応募部門 高等学校の部　　**所在地** 静岡県沼津市

☆☆☆

―目的・特徴等

本校生徒は北は富士山の麓、南は駿河湾を臨む海岸地域と非常に広範囲から通学して来る。また卒業後は一般就労をして社会参加をすることが目標であるため、自分の命は自分で守る自助能力の育成が必要です。同敷地内にある沼津城北高校や地域住民と連携を図りながら新しい防災教育の在り方を検討し実践して行きます。

―団体紹介

本校は働く意欲のある知的障害が比較的軽度な生徒を対象とした学校です。平成25年４月に沼津特別支援学校の分校として沼津城北高校敷地内に設置された新しい学校です。

本校の特徴は職業教育を充実させ、就労実現のための基礎的な力の育成及び伸長を図るとともに、心のユニバーサルデザインの視点に立ち、沼津城北高等学校生徒及び地域との共生・共育を推進しています。

【3】釧路市立大楽毛小学校

プラン名 大楽毛小学校防災教育推進プラン

応募部門 小学校低学年の部 ～小学校高学年の部

所在地 北海道釧路市

☆☆☆

―目的・特徴等

本校において最も警戒せねばならぬ災害は、地震と津波です。中でも津波は、予想津波高によると１０ｍの浸水地域に入ります。本校の校舎を含め、周囲には１０ｍ以上の安全な避難場所がなく、唯一の避難場所は１．５㎞離れた国道のみです。「子ども達全員の命を守る」を合言葉に、防災に関する知識を深め、不測の事態にどのような備えや訓練が必要かなどを考え、家庭や地域と連携を図りながら取り組んでいくことを目的にしています。

―団体紹介

私達の住む釧路市は、太平洋に面し、その沖合では数多くの地震が発生する地域です。加えて大楽毛小学校は、海岸から８００ｍほどの場所にあり、常に地震や津波に対する警戒が必要な場所にあります。地震や津波に対する意識は、地域の関心も高く、各町内会連携を図りながら対策を練っています。また、地域行事や子ども達の育成への取り組みも熱心で、コミュニティースクールの推進にもいち早く取り組んでおります。そのような地域の中で三百名を超える児童は、明るく元気な声を響かせ、のびのび・いきいきと生活しております。

【4】気仙沼市立階上小学校

プラン名 地域と連携した安全・安心で災害に強いまちづくり

応募部門 小学校低学年の部 ～小学校高学年の部

所在地 宮城県気仙沼市

☆☆☆

―目的・特徴等

当地域は、東日本大震災において甚大な被害を受けた。その経験を生かし、防災意識の向上と自らの命を守るために必要な判断力・行動力・知識を身に付けることを目的とする。主な活動として①中学校や地域と連携した合同避難訓練の実施。②復興に向けた階上町づくり、子どもセミナーやフォーラムへの参加。③専門機関等との連携を図った防災教育の指導計画の作成に取り組んでいる。

―団体紹介

本校は、宮城県の北部に位置する気仙沼市にある。全校児童２３０名で「楽しく学び合い考える子」「思いやりと正しい心をもつ子」「たくましい心と体で頑張る子」を教育目標に掲げ、教育活動に取り組んでいる。学区の東側は陸中海岸国立公園南端の景勝地岩井崎であるが、東日本大震災での大津波によって甚大な被害を受けた。震災から３年が経とうとしているが、今なお震災の爪痕が残り、仮設住宅等で不自由な生活している児童も多い。しかしながら児童は、明るく前向きな態度で学校生活を過ごしている。

【5】大堤こども有志会

プラン名　地域の絆が、最大の防災力！！
遊びから学ぶ防災学習！！！

応募部門　小学校低学年の部、
小学校高学年の部、
大学・一般の部

所在地　茨城県古河市

☆☆☆

―目的・特徴等

一番の目的は、遊びから防災・減災を学び、いざという時、子供たちが自分で身を守る事ができるようになればと考えます。合わせて、今回の「お互い協力し防災について学ぶ体験」から人と地域の絆を深め、将来地域を守ってもらえることを願っています。特徴としては、楽しめる課題を用意することで子供たちの潜在能力をひきだし、自ら考え、手を動かし積極的に学び、参加できるような時間と場所を作ることです。

―団体紹介

私達の住む古河市は、茨城県の最西端に位置し、千葉、埼玉、群馬、栃木の県境に位置しております。会の発足は「屋外で遊ぶ子供達の姿を見かける事が少ない！」こんな気持ちを抱いていた、父親達が意気投合し、一年を通じて年３回、地元の公民館に子供たちを集めて、餅つきや、手作り窯によるピザ作りなど、「遊ぶ時間と場所」をつくる活動をしてきました。モットーは、子供も大人も楽しんで、無理なく出来る範囲で活動し、参加可能な人が参加する。そんな会も多い時には、５０名ほどの参加があります。

【6】西予市立皆田小学校

プラン名　ジオと向き合った防災教育

応募部門　小学校低学年の部
～小学校高学年の部

所在地　愛媛県西予市

☆☆☆

―目的・特徴等

近い将来起こると考えられている南海トラフ地震に備え、西予市内の各校でも防災への意識は高まってきている。しかし、本校は標高約２００mのところに位置しており、津波が予想される海岸部と比べ、被害はそう大きくならないだろうと考えている人々は少なくない。

平成２５年９月に西予市がジオパークに認定されたことを契機に、今後は地質や地形を踏まえた防災教育を地域の核となって推進していきたいと考えているす。

―団体紹介

全校児童６９名の小規模校であるが、地域住民は本校教育に協力的で、ゲストティーチャーや学校行事で児童と接する機会も多い。そのような中、１１月には地域の関係機関と連携し、校区内全域で地震を想定した避難訓練を実施したところである。

また、高学年児童を中心に、四国西予ジオパーク認定以前から、地質や地形、自然のなりたちに着目したジオ学習を行ってきている。その素地を活かしながら、必ず発生する自然災害に対応する能力を向上させていきたい。

【7】ハッピーアイランド

プラン名 “いつも”のなかに“もしも”の備えを（循環型備蓄のすすめ）

応募部門 大学・一般の部　　**所在地** 埼玉県上尾市

☆☆☆

―目的・特徴等

予想される大地震に備え、行政や専門家主導の防災ではなく、私たち市民がすぐに自分でできる防災を、生活に密着した主婦目線から提案する。自分たちの街に必要な防災として、ライフラインが止まることに備え、水や食料を非常用として特別に蓄えるのではなく、日ごろから保存食品を上手に使い回ししながら循環備蓄することをひろめる。そのヒントとなるように、保存食のレシピ本を作り、配布しながら、市民の意識啓発を図る。

―団体紹介

私たちグループは上尾市消費者団体連絡会に所属し、消費者教育をテーマに活動しています。くらしの安心・安全のため、消費者も賢くならねばと、くらしにかかわる様々な事を取り上げ、毎年、上尾消費生活展でパネル発表しています。過去には裁判員制度導入前に検察庁の協力を受けながら市民団体として初めて模擬裁判を企画しました。

3.11の大震災の後は“防災”をテーマに活動しており、災害は特別のことではなく、いつ起きるかわからない“いつも”のこととしてとらえ、日常からの備えの必要性を訴えています。

【8】ＮＰＯ法人 大分県ノルディック・ウォーク連盟

プラン名 防災ノルディック・ウォーク教室

応募部門 保育園・幼稚園の部～大学・一般の部　　**所在地** 大分県大分市

☆☆☆

―目的・特徴等

地元有志、ノルディック・ウォークの指導員、そして地元の防災士、保健師と協力し、ノルディック・ウォークを用いた避難訓練の実施をおこなう。保健師による高齢者の体力測定、経過観察を行い、防災士による定期的な避難経路の状況確認や避難訓練の検討を行い、より効果的で継続可能な避難訓練の検討を行います。この結果を他の地域に広めていくことで、新しい避難訓練プログラムを作りたいと考えています。

―団体紹介

ＮＰＯ法人 大分県ノルディック・ウォーク連盟は、大分県及び周辺地域の個人及び団体に対して、ノルディック・ウォーク運動の普及、及び正しい知識の普及と熱意あふれる指導員の育成を図ることと共に、啓発に携わる個人及び団体と連携してすべての国民の健康増進活動を促進し、地域の自然や文化に親しみ明るく豊かな国民生活の形成に寄与することを目的としています。この目的を達成するために、私たちは大きく「健康」「観光」「防災」をノルディック・ウォークの3つの柱として掲げています。

【9】特定非営利活動法人 千葉自然学校

プラン名 キャンプ・カーニバル「防災・災害について体験しよう！」

応募部門 保育園・幼稚園の部 ～中学校の部

所在地 千葉県千葉市

☆☆☆

―目的・特徴等

サマーキャンプ終了後の10月にボランティアスタッフ、参加者を対象にキャンプ・カーニバルを開催している。

キャンプ活動は、防災・災害教育の内容を充分に取り入れていますが、あえて「防災・災害教育」をクローズアップして、ボランティアスタッフ、参加者へ楽しく遊びながら、体験を通じてプログラムを展開する。

主に非常炊き出し体験、テント設営、異年齢のコミュニケーション力の向上、防災チャレンジ運動会の実施を予定している。

―団体紹介

千葉県内における自然体験活動団体をつなぐネットワーク型の自然学校として、平成15年より活動を行っている。

自然体験を通して、千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指している。

また、ネットワーク会員との連携を強化し、県内全域で幅広い世代を対象とした自然体験活動を実施している。

主に主催事業、行政・企業からの受託事業、県立青少年教育施設などの指定管理、自然体験活動指導者養成事業などを実施している。

【10】京都府立田辺高等学校地歴公民科

プラン名 誰でも気軽に防災教育 ～ 地理授業プラン

応募部門 高等学校の部

所在地 京都府京田辺市

☆☆☆

―目的・特徴等

今まで防災教育に取り組んでいなかった授業担当者が、肩ひじ張らずに気軽に取り組める内容を目指し、教員も生徒も気軽に防災意識を作るきっかけとしたい。そのために、新規に教材を開発するのではなく、今まで全国で取り組まれてきた防災教育の積み重ねの中から、高等学校地理の教材として手軽に取り組めるものを選び、指導案としてまとめていきたい。体系だった授業案ではなく、まず生徒の興味関心を引くための２時間程度の単発の投げ込み教材の集大成を考えている。

―団体紹介

昭和３８年に工業に関する専門学科を設置する高等学校として、京都府南部に開校した。現在は、普通科・工業技術科・自動車科が併置されており、優しい心を持ち、自分をしっかりと見つめ、社会人として生き抜く力を持った「人間力ある人」の育成を図っている。工業技術科・自動車科では従来から、防災に役立つもの作りの実践を行ってきたが、普通科科目については目立つ取り組みは行われてこなかった。地震災害時の広域避難所にも指定されていることもあり、できるところから防災教育を考えていこうとしている。

2014年度 審査委員会

委員長	渡邉 正樹	東京学芸大学教育学部 教授／日本安全教育学会 理事長
委 員	安藤 雄太	法政大学現代福祉学部 兼任講師／東京ボランティア・市民活動センターアドバイザー
委 員	宇田 英弘	全国連合小学校長会 庶務部長／千葉市立寒川小学校長
委 員	久保田 伸	東日本電信電話株式会社ネットワーク事業推進本部サービス運営部 災害対策室長
委 員	佐々木 克樹	内閣府大臣官房審議官（防災担当）
委 員	重川 希志依	常葉大学大学院環境防災研究科 教授
委 員	清水 善久	東京ガス株式会社 導管ネットワーク本部防災・供給部 部長兼供給指令室長
委 員	庄子 憲義	東京海上日動リスクコンサルティング株式会社 常務取締役
委 員	戸田 芳雄	東京女子体育大学 教授
委 員	林 春男	京都大学防災研究所巨大災害研究センター 教授
委 員	山口 博	東京電力株式会社 取締役 代表執行役副社長
委 員	山﨑 登	日本放送協会 解説主幹
委 員	米田 徹	日本ジオパークネットワーク 会長／新潟県 糸魚川市長

（平成 26 年 12 月 1 日現在、50 音順、敬称略）

MEMO

防災教育チャレンジプラン募集の御案内

1. 募集の概要

防災教育チャレンジプランでは、全国で取り組まれつつある防災教育の場の拡大や質の向上に役立つ共通の資産をつくることを目的に、新しいチャレンジをサポートいたします。そのプランの準備・実践に当たって発生する経費を支援し、実現に向けて防災教育チャレンジプランアドバイザーが伺うなどして相談などの支援を行います。

応募の中から選ばれたプランは、活動計画について前年度の活動報告会（最終報告会）で発表、さらに1年間実践した結果を、交流フォーラム（中間報告会）と活動報告会（最終報告会）で成果を発表していただきます。※入門枠は発表不要

活動報告会（最終報告会）においては、優秀な実践活動に対して防災教育大賞、防災教育優秀賞、防災教育特別賞を授与いたします。また、皆さんのチャレンジプランの成果はホームページなどで広く公開いたします。

● 入門枠「はじめの一歩」について

2014年度募集でも、初めて防災教育に取り組まれる方を対象とした入門枠「はじめの一歩」を設けました。
※入門枠についての詳細はホームページ内の募集要項（入門枠）をご覧下さい。

サポート内容	一般枠	■プランの実践にかかる経費の提供／上限 30 万円（査定による） ※活動・予算計画書の提出及び団体名義の口座が必要となります。 ■交流フォーラム（中間報告会）・活動報告会（最終報告会）発表者への交通・宿泊費の支給。（1名分×3 回分） ■プランの実現に向けて、実行委員会が認定する防災教育チャレンジプランアドバイザーが助言や現地指導等の支援を行います。
	入門枠	■プランの実践にかかる経費の提供／上限 5 万円（査定による） ※活動・予算計画書の提出及び団体名義の口座が必要となります。 ■プランの実現に向けて、実行委員会が認定する防災教育チャレンジプランアドバイザーが助言や現地指導等の支援を行います。
表彰	一般枠	■活動プロセス及び成果に対して審査を行い、優秀な実践活動に対して、防災教育大賞・防災教育優秀賞・防災教育特別賞を決定し、 表彰状と盾を授与いたします。 ■防災教育チャレンジプラン「サポーター」として認定いたします。
	入門枠	■活動プロセス及び成果に対して評価し、優秀な実践活動について表彰いたします。

2. 応募資格

● 防災教育を一層充実させたいと考えている教育・社会福祉施設（保育施設・幼稚園・学校等）、教育委員会、NPO、地域団体（民間事業所、各種団体、行政機関）、個人等
● 採用された場合は、都内にて開催予定の実践団体決定会、中間報告会、最終報告会の計3回の会合に出席できること。（一般枠のみ）

3. 応募部門（プランの対象別）

A. 保育園・幼稚園の部　B. 小学校低学年の部　C. 小学校高学年の部
D. 中学校の部　E. 高等学校の部　F. 大学・一般の部

4. 募集期間

毎年9月頃～12月頃に募集。詳細は、ホームページ上でお知らせいたします。

防災教育チャレンジプラン

■　防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局
E-mail：cpinfo2865@bosai-study.net

■　防災教育チャレンジプランホームページ
http://www.bosai-study.net/

※E-mail アドレスは、予告なく変更することがあります。
最新情報は、ホームページでご確認ください。